財団法人暹羅協會々報

第十三號

昭和十三年十二月

贈呈

昭和十三年十二月

財團法人 暹羅協會々報 第十三號

財團法人 暹羅協會

財團法人 暹羅協會々報第十三號　目次

口絵寫眞

一、暹羅に立寄りたる世界一週賀筭視察團員の一部

二、暹羅國政府派遣警察學生

新聞論調報告欄

○暹羅の華僑（八月九日、盤谷タイムス紙所載）……一

資料欄

○暹羅佛曆二四七九年貿易狀況……三

○暹羅佛曆二四八〇年貿易統計概要……二七

○日暹貿易上取殘されたる南暹地方並びに暹羅西海岸地方……四三

雜苑

○對暹文化事業雜記……日語文化學校幹事　松宮一也…四八

○シヤム旅行記……東京商科大學々生　山田明…五九

○暹羅の姿を見て……專修大學々生　白鳥五十男…七一

○暹羅留學生を視く……黑野政市……七五

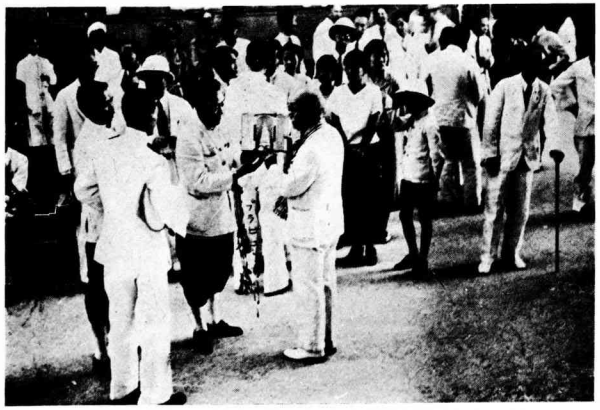
雜報欄

○秩父總裁宮殿下の廣東攻略御參戰……八三
○アテイツト殿下より秩父總裁宮殿下へ再度の御贈品……八三
○暹羅農相の辭任……八三
○人民代表議會解散……八四
○政黨法案を起草……八四
○暹羅船舶法案……八四
○暹羅國立銀行設立問題再燃……八四
○暹羅政府の在暹華僑彈壓……八五
○築港特別委員會の設置……八五
○暹羅海軍巡洋艦建造說……八五
○新議事堂建設案決定……八六
○ノンタブリーに放送局の新設……八六
○暹羅航空輸送會社業績……八六
○榎並、倉田兩暹羅名譽領事へ暹羅勳章の贈與……八六
○臺灣總督より本協會へ補助金下付……八七
○暹羅「日暹協會」の近況……八七
○暹羅男女學生に軍事訓練……九〇
○盤谷で滿洲特產展示會……九〇
○都下大學、專門學校學生南洋研究聯合會の成立……九〇
○元暹羅經濟相の新輸出會社設立計畫……九一
○在暹プラ・サラサ氏の皇軍慰問金獻納……九一
○暹羅國內閣書記官一行の歡迎午餐會開催……九二
○最近暹羅よりの歸朝者歡迎晩餐會開催……九二
○暹羅警察學生の歸國……九二
○暹羅女留學生の來朝……九三
○留日暹羅學生の演技……九二
○駐日暹羅公使館付武官の陞進……九三
○東京暹羅公使館々員の增員……九四
○暹羅人士の往來……九四
○會員動靜……九四
○寄贈圖書……九五
○財團法人暹羅協會總裁及役員並職員……九五

（一）遥羅に立寄りたる世界一週實業視察團員の一部（於停車場）

中央・團長矢田協會常務理事・其左・在盤谷日暹協會外務部長ラ・ピピツサトーリー氏

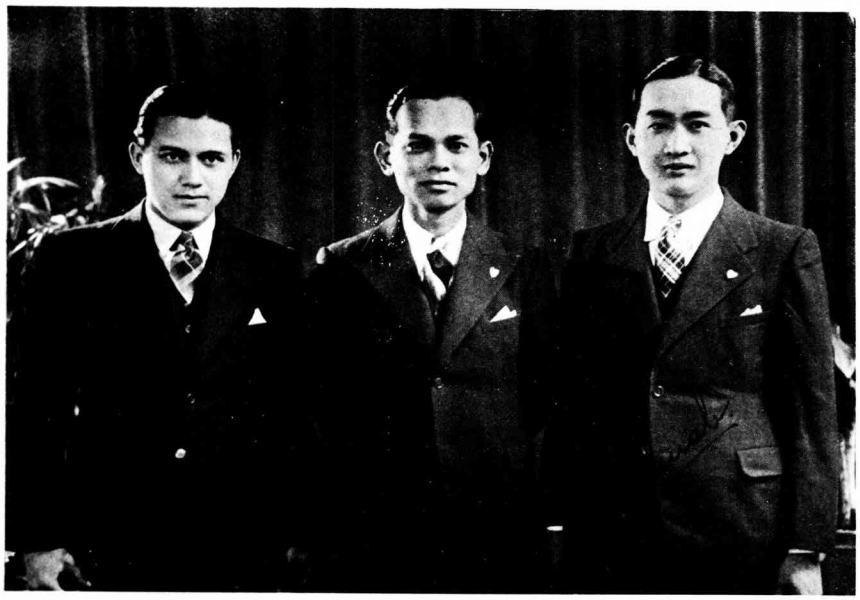
（二）同　上



右より半身を裏はせるは前駐日クワサ公使・ステスキツをキを持てろはは井村駐暹公使・横中央中・
向は矢田常務理事・左端白眼黒ズボンは日暹協會長ピヤ・スリシカンチ・パンヨチンン氏

暹羅國政府派遣警察學生

（記事參照）



右より「ブソラブヤンブ・ンヨチンバ」君「ダンナカダンマ・スラムヤチ」君「ラトプィテラキ・プオェチラブ」君

會　報　第十三號

新聞論調

○暹羅の華僑

（八月九日、盤谷タイムス紙所載）

近刊の小編「暹羅華僑」に依れば、暹羅華僑は毎年支那本國に三千七百萬銖の送金をなしてゐるとのことである。本問題に關聯して、一九三六年發表の暹羅財政顧問ドル氏の意見を茲に紹介する。

「支那國立銀行總裁は一九三二年度に於ける支那移民の世界的不況時にも拘らず、暹羅華僑の母國送金額は五千萬弗――當時の爲替相場で略々三千七百萬銖に當る――に達したる事を慶賀してゐる。之は多少見積過大なりと云ひ得るかも知れない、が之が事實その儘でないからと云つても暹羅側には此の數字を減少せしめるに足る充分な資料を持合はしてゐないのである。

元來暹羅人は商業に從事することを好まず、從つて大部分の國内商業と、事實上全貿易は外國人の手中に收められてゐるのは不思議ではない。問題は暹羅國内の利益の全部が國外に送金され、國内に少しも保留されざるの事實

にある。暹羅の貿易尻は紙上に於ては頗る順調ではあるが、實際は對外貸方勘定に依る收入では到底精算しきれないのである。何故なら之は國内事業利益の國外送金、運送料、保險料、個人送金——主として華僑の支那本國家族への送金である——等の無形の輸入で相殺されて了ふからである。」

「右の事實は如何に國富の增大を防害するものなるかを示すものであり、主要なる暹羅の商業は外人の手中に握られてゐるので、素晴しい貿易差額も、事實は單により大なる國外送金が行はれてゐるのを物語るに過ぎず、暹羅國自身の富の增大は殆んど無い事を示すに過ぎないのである。……故に軍備擴張と云ふ如き問題に對しては大いに愼重なる態度を持す必要がある。……暹羅の利益の大部分を國内に留保せんことを目的とする政策に對しては綿密なる注意を拂ふことが肝要である。」

「暹羅の華僑」なるパンフレットの著者が斯の如き問題に注意を喚起し、暹羅は自國の對外貿易を手中に握る樣一層努力すべきであると勸告したのは尤もなことである。然し之は漸進主義を以つてのみ達成し得るのであつて、單に華僑であるとか又は他の一外國人を放逐するのみで事足れりとなすならば、暹羅人の地位を益々惡化せしむる結果を齎すのみであらう。

資料欄

○暹羅佛曆二四七九年貿易狀況

一、輸出入概況

暹羅佛曆二四七九年（自一九三六年四月一日至一九三七年三月三十一日）の暹羅の外國貿易總額は二九四、四〇五、〇〇〇銖、內輸入一、一〇、〇四四、〇〇〇銖、輸出一八四、三六一、〇〇〇銖にして、出超七四、三一七、〇〇〇銖を示してゐる。尙、貿易總額は前年度に比して二七、四三三、〇〇〇銖を、出超額は二四、八五三、〇〇〇銖を夫々增加してゐる。最近十箇年の統計に就て輸出入情況の趨勢を示せば次の如くである。

最近十箇年輸出入貿易趨勢表

（單位＝千銖）

年次	輸出入總額	輸入 政府輸入	輸入 輸入總額	輸出 國產輸出	輸出 再輸出	出超額	輸入に對する輸出の割合
一九二七——二八	四七七、三五〇	七、七一七	二〇一、〇八一	二六九、二〇五	七、〇六四	七五、一八八	一三八・八
一九二八——二九	四四二、二六五	九、八三七	一八九、七九〇	二四六、四六四	六、〇一一	六二、六八五	一三四・一
一九二九——三〇	四二六、四八六	一一、四四四	二〇六、七一三	二一二、三六五	七、四〇八	一三、〇六〇	一〇六・六

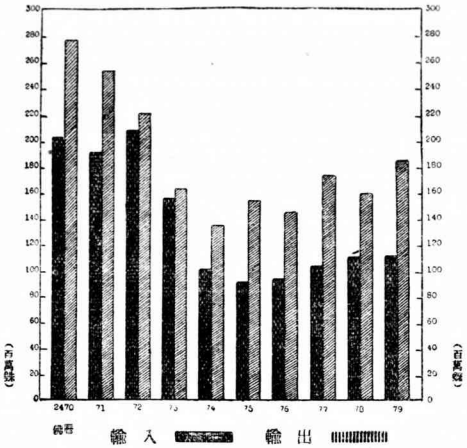
一九三〇—三一	三一六、五二八	七、二二四	一五五、〇〇九	二五六、九五五	四、五六四	六、五一〇	一〇四・三
一九三一—三二	二三四、一一六	七、〇四四	九九、九〇九	一三一、四九六	二、七一一	三四、二九八	一三五・三
一九三二—三三	二四二、〇二〇	一、六六〇	八九、四九七	一五〇、四四七	二、〇七六	六三、〇二五	一七二・一
一九三三—三四	二三七、〇四二	四、六六二	九二、九六三	一四二、〇七五	二、〇〇四	五一、一一六	一五六・二
一九三四—三五	二七四、三二二	一、二五六	一〇一、七二七	一六九、七一一	二、八八四	七〇、六八六	一七一・七
一九三五—三六	二六六、九七二	一、六一八	一〇八、七五四	一五五、六三七	二、五八一	四九、四六四	一四六・六
一九三六—三七	二九四、四〇五	二、五〇六	一一〇、〇四四	一八一、〇四六	三、三一五	七四、三一七	一六九・六

第一圖(五頁)は最近十箇年間の遲羅對外貿易の趨勢を圖示せるものである。

遲羅は元來農業國にて、食料品及原料品を輸出して、製品を輸入してゐる。近年に至つて國內工業の保護奬勵を行つてゐるが、國內資源の原始的加工業たる精米業竝に製材業の他は見るべきものなく、唯麥酒、燐寸、セメントの製造工業に稍々見るべきものがあるに過ぎないのであつて、輸出貿易は少數の商品殊に米は著しく偏倚し、最近錫及護謨の進出に依り米の輸出貿易に於て占むる地位は從前の如く大ではなくなつたが、而も尙現在五割以上を占めてゐる。從つて米の豐凶、輸出米價の高低は直ちに遲羅の輸出貿易の消長を左右し、間接には國民購買力に影響して、輸入貿易の盛衰に反響するのである。

遲羅の對外貿易は二〇世紀に入つて一億銖を超へ、歐洲大戰の前年たる一九一三—一四年度には二億銖を突破、大戰の影響に依つて一時萎縮したが、一九一九—二〇年度に三・二億銖に達した。一九二〇—二一年度は遲羅米の大凶作の爲め、國內食料保有の必要上米輸出禁止の止むなきに至つたと共に、戰後景氣の反動期に際會して、二・五億顚落したが、漸次恢復の途を辿り、一九二八—二九年度には四・八億といふ未曾有の好況を示した。然るに一九二九年夏に始つた世界的な經濟恐慌の波は遲羅米にも大なる影響を及ぼし、輸出米價は慘落して、一九二九年に擔當七・三七銖を示してゐたのが、一九三一年には三・四九銖となり、一九三一—三二年度の貿易額は前記一九二七—二八年度の好況時の四八%に落下し、その後も米價漸落を續け、一九三四年には二・九二銖に迄崩落せしことあり、一九三四—三五年に至つて輸出量の增加、錫、護謨等の進出に依つて前記一九二七—二八年の五七%迄恢復した。其の後多少の盛衰はあつたが、米輸出量の增加と錫、護謨、チーク等の輸出が漸次好調を續け、一九三六—三七年度に於て漸く三億臺に接近するに至つた。

第一圖　最近十箇年間遲羅輸出入貿易圖表



因みに、遲羅は前表に示す如く、輸入に對する輸出の割合が一九三六—三七年度一六九・六%といふ多額の出超國であるが、之は農業國の常例として遲羅が貿易外國際貸借に於て有力な受取勘定を有しないのに反し、外債の償還及利子、政府海外送金、華僑其他在留外人の母國送金等が著しく多額に上り、殊に華僑送金は年平均

三千萬銖以上と推定されて居る如く、此等の貿易外支拂を決濟する爲に如何にしても以上の如き出超を維持する必要を有するのである。

二、輸入貿易

運輸は既述の如く製造工業未發達の爲め輸入品は原料の輸入極めて少く、殆んど製造品に依つて占められ、その種類は頗る多岐に亘つてゐる。

輸入總額は前年度（一九三五—三六年）に比し一、二九〇千銖を增加してゐるが、之は前年度に對して一・二%、前々年度に對しては八・二%の增加となる。主要類別に見て減少を示してゐるのは原料品の九二六、二五七銖のみで、他は總て一率に增加を示してゐる。

類別輸入額表　（單位＝銖）

	一九三五—三六年	一九三六—三七年	增減
生禽獸	三二、四四五	六六、四一六	(+) 三三、九七一
食料品	一五、八四九、一八七	一六、六二〇、三四六	(+) 一、二〇一、一五九
原料品	一四、九五八、四六八	一四、〇三二、一七一	(−) 九二六、二五七
製造品	七六、四三一、〇二二	七六、五三四、五二一	(+) 一〇三、四九九
酒類及酒精	一、二八二、七四九	一、五七二、〇二九	(+) 二八九、二八〇
阿片	—	二二九、二一四	(+) 二二九、二一四
地金銀正貨	一五〇、七三六	八六七、三八七	(+) 七一六、六五一
金葉	四九、四三〇	九一、五四六	(+) 四二、一一六
計	一〇八、七五四、〇四七	一一〇、〇四三、六四八	(+) 一、二八九、六〇一

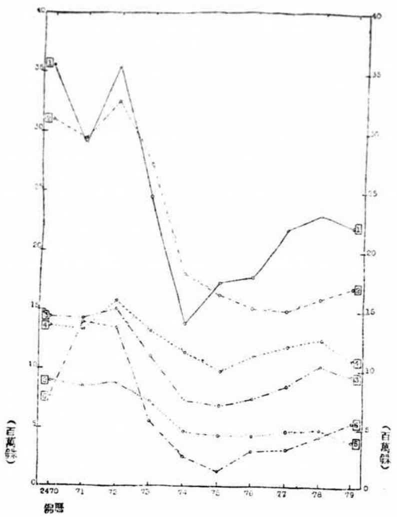
（備考）本表には各種政府輸入品一、六一八千銖（一九三五—三六年）及二、五六〇千銖を含む（一九三六—三七年）

次に最近十箇年間の統計に依つて主要輸入品の趨勢を見れば次の如くである。（單位＝銖）

	一九二七—二八	一九二八—二九	一九二九—三〇	一九三〇—三一	一九三一—三二	一九三二—三三	一九三三—三四	一九三四—三五	一九三五—三六	一九三六—三七
食料品	三〇、八四三、九一	二九、三〇五、三五	三三、三〇五、五八	二七、〇六九、七〇五	一七、八三〇、六〇〇	二六、〇九九、五七七	一五、〇九二、七六	一四、七七七、七五	一五、八四九、一八七	一六、六二〇、三四六
石油	七、四〇五、〇七〇	六、三四一、八三八	七、三八、七七九	五、四一六、六三〇	四、九〇三、九七七	四、一五八、八四三	四、二四八、〇四	四、四七七、五三	五、〇四六、七九八	一、二〇一、一五九
ベンヂン	—	—	—	四、九五四、三七	四、二六八、〇四三	三、四六六、六六八	四、三三三、三五	四、六六三、〇〇八	四、八五八、八六八	九二六、二五七
ガソリン袋	九、一四三、八三八	七、七七五、三三八	七、〇五五、七七一	三、四三七、三四四	三、六〇五、三〇四	五、四一八、七五	四、四五八、八六八	六、九一三、六六八	五、三五〇、八七	一〇三、四九九
機械	七、五〇六、一七四	一、三七、四三六〇	一、三三〇、三六三	五、四七四、七五〇	二、四五五、〇一五	一、三七八、九一六	二、五五七、一九〇	三、二四八、八五	四、一五七、九一六	五、四一八、六五七
金屬製品	一四、三九、八〇〇	一四、〇三四、九八一	一四、八三、四八一	一、九二、九四三九	七、一〇八、五四〇	六、六七四、四八〇	七、二四九、九三五	八、三三三、七四四	一〇〇、一二八	九、三八七、一三〇
綿製品	二、八八四、八三	三、三七七、八三一	二、八六二、二六四	一、九五、二四、九九二	一、二五九、一九〇〇	一、四九、九三五六	一、四九、五九、九六六	一、七一三、八三三	一、八八六、四四三	一、六七二、九三〇
其他織物	六、五三一、六三六	六、〇八〇、五八三	六、六三七、七三	四、七七七、〇一九	三、〇四九、五一九	三、一一二、三六五	三、七五五、〇四三	四、六四八、三八	四、〇四〇、二四	五、三〇〇、四〇三
煙草類	八、五七七、四四六	八、四三三、八五五	八、六〇三、六一一	七、〇四〇、〇一七	四、五八〇、一三	四、一三八、三七四	四、一四九、五一三	四、六四三、八〇四	四、七一三、五三六	三、八〇一、五九九
其他商品	六六、六六六、五〇六	六四、四一七、〇五九	七一、四六三、八一三	五六、三一五、四六四	三八、四五五、五四五	三一、七五三、七一三	二六、七四九、三六六	三一、三五九、九〇〇	三四、三八一、九〇五	三七〇、三七、五三三
計	一八〇、〇〇六、七一五	一七、九四一、八六一	一九〇、一〇一、五九三	一四〇、三五、四三五	九一、五九、一、一四	八六、六六一、三六八	八七、一九四、九〇九	一〇〇、三一七、六〇〇	一〇七、一七、一三三	一〇七、八三、五四
酒精飲料	三、九六七、八三	三、三六五、七〇九	三、五〇五、三〇九	三、〇一七、八四〇	一、二五九、三〇五	一〇、三〇〇、九〇	—	一、四〇、五〇三	一、三四、八五五	一、三八三、七四九
阿片	五七、二四三	四、六四九、四〇五	四、八四八、五六八	三、四七、一六五	三、三八、八一九〇	—	四、〇八六、一〇九	—	—	三、九、三一四

計	一八八,六八五,三〇九	一八〇,八五六,三六〇	一九八,四五五,八六〇	一四九,四六〇,四五八	九七,一七八,六三六	八七,六九一,六二八	九二,四二一,五二一	一〇一,三五三,四五五	一〇八,五五三,八八一	一〇九,〇八四,六九七
地金、鑄貨	四,六六七,一二九	四,三三一,七三三	四,六九一,四六一	四,三六四,三六三	二,四四八,九五一	一,七八一,七九五	四九二,六六五	三三六,五五八	一五〇,七三六	八六七,三八七
金葉	七,七三八,〇九七	四,七二三,三九三	三,五五五,七七七	一,二八四,〇六六	二八一,二五〇	二四,〇〇〇	四九,三三五	三七,七七八	四九,四三〇	九一,五六四
總計	二〇一,〇八〇,五三五	一八九,七九〇,五〇六	二〇六,七三一,〇七八	一五五,〇〇八,八八七	九九,九〇八,八三七	八九,四九七,四二三	九二,九六三,三八一	一〇一,七二六,七三一	一〇八,七五四,〇四七	一一〇,〇四三,六四八

第二圖は右表中主要輸入品六類別の十箇年の輸入趨勢をグラフに依つて示せるものである。



第二圖　主要輸入品價額

①……織物製品　②……食料品
③……金屬製品　④……鑛油
⑤……煙草類　⑥……機械

製造品中主要品目別の輸入額を前年度と比較して示せば次の如くである。(單位＝千銖)

	一九三五―三六年	一九三六―三七年	增減	
護謨製品	一,二〇二	一,四八〇	(＋)	二七八
化學製品	一,〇五〇	一,一七四	(＋)	一二四
粗製陶器	六二六	五〇七	(－)	一一九
時計	一七二	二六三	(＋)	九一
繩索類	四九〇	六六〇	(＋)	一七〇
染料	五〇三	三九八	(－)	一〇五
電氣器具	二,〇二七	二,四七三	(＋)	四四六
爆發物(爆竹、煙花等を含む)	一二五	二三六	(＋)	一一一
硝子製品	六五〇	七九六	(＋)	一四六
ガンニー袋	五,二六五	五,三四九	(＋)	八四
帽子類	四七七	四四九	(－)	二八
ヘンプ製品	二四一	二五一	(＋)	一〇
莫大小製品	四二八	二六三	(－)	一六五
科學機械	三一四	三四八	(＋)	三六
皮革・同製品	三一九	二五八	(－)	六一
機械	四,一五八	五,四一七	(＋)	一,二五九
籐・竹・麥桿製品	七四八	七七八	(＋)	三〇
藥品類	一,七四七	一,九七六	(＋)	二二九

金屬製品	一〇、〇七一	(一)	九、三八七	(一) 六八四
油類	八八五	(+)	一、〇〇四	(+) 一一九
塗料	四〇二	(+)	五四七	(+) 一四五
紙類	二、一五九	(+)	二、六二七	(+) 四六八
香水・コスメチック	三二四	(+)	三三〇	(+) 六
寫眞用品	八四八	(+)	九〇六	(+) 五八
石鹸	一九八	(+)	二一〇	(+) 一二
文房具	三四四	(一)	三二八	(一) 一六
織物				
(イ)綿製品	一八、八六九	(一)	一六、七二九	(一) 二、一四〇
(ロ)亞麻製品	八一	(+)	一五八	(+) 七七
(ハ)絹製品	一、一〇七	(一)	一、一〇二	(一) 五
(ニ)羊毛製品	二九四	(一)	二四八	(一) 四六
(ホ)人絹製品	二、五四九	(+)	三、六二三	(+) 一、〇七四
煙草	四、七一四	(一)	三、八〇二	(一) 九一二
工具(機械工具を除く)	六三五	(+)	六七三	(+) 三八
洋傘	三七三	(+)	三九三	(+) 二〇
車輛	三、一三一	(一)	二、八三六	(一) 二九五
蠟	二一一	(+)	二七三	(+) 六二
木製品	二一一	(一)	一九七	(一) 一四
絲類	三、六〇七	(一)	三、〇二七	(一) 五八〇
其他製造品	四、八七六	(+)	五、〇五九	(+) 一八三
計	七六、四三一	(+)	七六、五三五	(+) 一〇四

次に仕出國別輸入貿易を見るに、獨逸、印度の進出と蘭印の減退とが目立つてゐるが、一九三三—三四年度に新嘉坡、香港、英國を抜いて第一位に上つた日本は躍進を續け、一九三六—三七年は二五・六八%を占めて第二位の新嘉坡（一六・一七%）を遙かに引離して依然第一位にある。主要仕出國よりの輸入額を前年に比較して示せば次の如くである。

主要仕出國別輸入額　（單位＝錢）

	一九三五—三六年		一九三六—三七年		增減
	總額	%	總額	%	
日本	二七、七九二、七四五	二五・五六	二八、二五八、七四五	二五・六八	(+) 四六六、〇〇〇
臺灣	一〇、六七九	〇・〇一	八、六八七	〇・〇一	(一) 一、九九二
計	二七、八〇三、四二四	二五・五七	二八、二六七、四三二	二五・六九	(+) 四六四、〇〇八
新嘉坡	一五、三四七、八八七	一四・一一	一七、七九四、五二二	一六・一七	(+) 二、四三六、六三五
英國	一二、五九〇、〇二〇	一一・五八	一一、一六七、三一八	一〇・一五	(一) 一、四二二、七〇二
蘭領印度	一一、九一五、〇一七	一〇・九六	五、五九六、ナ二四	五・〇九	(一) 六、三一八、三九三
香港	九、六五九、九四二	八・八八	一〇、一五二、一七三	九・二三	(+) 四九二、二三一

彼南	七、七四一、一七七	七・一二	八、七〇三、〇四四	七・九一	(+)	九六一、八六七
獨逸	四、六五六、六五九	四・二八	五、九四〇、五四三	五・四〇	(+)	一、二八三、八八四
支那	四、〇六四、五六三	三・七四	四、四四七、六二〇	四・〇四	(+)	三八三、〇五七
印度	三、六五一、二二八	三・三六	四、六八九、二八三	四・二六	(+)	一、〇三八、一五五
米國	三、二五八、二九九	三・〇〇	四、一〇三、七九〇	三・七三	(+)	八四五、四九一
瑞西	一、三七七、二〇二	一・二七	一、四六七、一八二	一・三三	(+)	八九、九八〇
和蘭	一、三三三、一〇七	一・二三	一、七二九、二五九	一・五七	(+)	三九六、一五二
濠洲	一、〇九四、六二一	一・〇一	一、三七一、二四五	一・二五	(+)	二七六、六二四

三 輸出貿易

一九三六—三七年度輸出總額は前年度に比し二六、一四三、〇〇〇銖を増加、地金・鑄貨の項を除き全體的増加を示してゐる。

類別輸出量額表

		一九三五—三六年	一九三六—三七年	増減	
米	(千銖)	九〇、八三六	九五、九四四	(+)	五、一〇八
	(千擔)	二五、〇三〇	二五、九七八	(+)	九四八
錫及錫鑛	(千銖)	二三、三七五	二九、八〇九	(+)	六、四三四
	(千擔)	二三八	三〇八	(+)	七〇
チーク	(千銖)	五、〇五二	八、六五二	(+)	三、六〇〇
	(千立方噸)	四五	七一	(+)	二六
護謨・屑護謨	(千銖)	一三、二一九	二三、五三六	(+)	一〇、三一七
同 代用品	(千瓩)	三一、二二四	三八、三〇八	(+)	七、〇八四
其他商品		一四、二四九	一八、一二八	(+)	三、八七九
再輸出		二、五八二	三、三一五	(+)	七三三
地金・鑄貨		八、九〇五	四、九七七	(−)	三、九二八
計		一五八、二一八	一八四、三六一	(+)	二六、一四三

次に最近十箇年の統計に依つて主要輸出品の趨勢を見れば次の如くである。

(單位＝銖)

米		一九二七—二八	一九二八—二九	一九二九—三〇	一九三〇—三一	一九三一—三二	一九三二—三三	一九三三—三四	一九三四—三五	一九三五—三六	一九三六—三七
	(擔)	三〇、二五六、三四六	一、七五、二三七、八一	二、九〇七、五九〇	一〇、四〇七、七八	七、五〇〇、三五四	九四、二〇〇、六〇〇	八、九六七、三二〇	九、八四二、三九七	九、八三五、六三二	九、五、九四四、四四四
錫及錫鑛		三、八六七、〇六五	二、四六六、七三〇九	一、八六〇、〇〇七	一、七一二、三三〇	三、二〇〇、四三五	二七、八六七、二一〇	二七、七二四、六三一	三三、七〇一、三五	二五、〇、九七六	二五、九七八、四四五
チーク		九、九四七、二九二	二、二、二四二、八六四	二、二、二、八七三	二、六八、五二、二六八	一、三四三、二六七	一四、三〇三、九三〇	二、三四、五四二、六三五	二、六、三四六、六〇	二、三、三五、二五	二、九、八〇、九七、八九
其他木材		三、五五、七〇七	三、七二、九〇四〇	三、三、九、三四六	一、五、四四、四〇八	一、四四八、四二三	一、二一七、七六六	一、〇七七、九一〇	一、〇、八八、一三	八、六七、一八三	一、〇四五、七五五
護謨・屑護謨 同代用品		六、九五九、三三六	三、一八三、一二	三、二四〇、九三五四	一、三一、九三、九四	五三、八、一六七	三五、六、六九一	三、三五、九、九三三	九、三〇、五、八三四	一、三三、二八、四五	三、三、五六、三四七
水牛		六三、六六、六三二	一、二三七、一九七	一、三〇、八、九三八	四、八六、六七六	八三、一八〇	二、三四、三九三	五、九、一八〇	九四、二、二一	一、五四、八〇五	一、七八、五九二
黃牛		九、八六、八九九	一、四九、一、五四	一、二三六、四四六	八、三二、三五六	一四、九、九〇〇	二、八〇、四四五	四、一三、九〇六	九〇、三、八三	三、二七、四〇一	六、二、六三〇

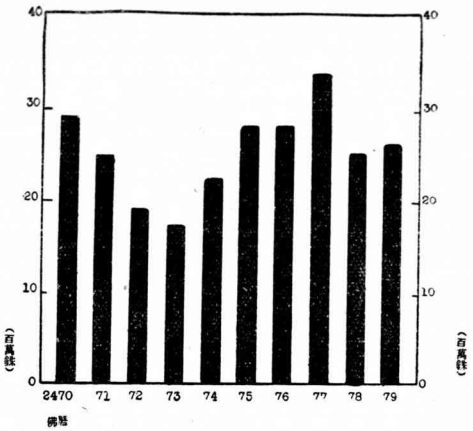
家禽	一,一三八,六〇四	一,二七〇,四五七	一,五〇三,二七六	一,一四一,一五一	四九二,六一七	三三九,九二三	三四一,一三一	三八七,九七五	四四七,四三七	四二八,六三八
豚	二,二五五,〇〇三	二,〇二一,三九九	二,九二六,五四三	一,五九八,八四八	一,一一八,一四七	一,一二四,七三〇	一,三一〇,一三〇	一,六二八,〇三五	三八八,三五九	一五一,九一二
燕巣	三九一,〇四五	四四五,九〇五	三八八,九一六	二五三,六四一	一九九,〇三三	一〇六,五六六	一五七,八一八	一五五,八四五	二一六,四一〇	二四,八一六
干蕃椒	二四,六二七	一,〇一八	六〇,〇三〇	四九,三三四	一三,六三九	四二,一九七	一九五,九九九	二四七,六一七	一五六,三一八	三八〇,三六一
家鴨卵	七六五,一九八	八一六,七六八	三四〇,〇三七	一〇五,九五三	九一,二八六	二九四,六九六	二五〇,五八四	五七〇,〇〇七	五九一,四一三	九四一,一五四
鹽魚	三,三九〇,二六五	三,四〇一,九〇三	三,一三六,七七八	二,四八五,九二三	二,〇四九,一一六	二,一六一,六六九	一,八二四,三三〇	二,四三四,〇五六	一,七八四,八七六	二,一三一,七八四
生果	一,二八二,三三五	九六六,八二六	一,〇四六,一九一	七五九,〇五二	六一一,〇四五	五四一,七七九	三六六,七九二	五六二,八六二	四八八,八八八	六八四,五五七
乾貽貝	七八一,五〇〇	九六八,二四五	九三六,八六三	八六二,五一四	三六七,四三七	三九一,四九二	二八七,七一〇	三三三,〇七三	二五八,五〇一	三〇八,〇三一
玉葱	七〇五,一一三	五三五,四六七	四〇九,六八八	六三七,九二四	三五九,五〇五	三四七,七八八	四一七,二八九	四四九,五〇七	三六〇,一〇八	三四〇,六三五
胡椒	一,四四二,四五七	八四五,二〇二	一,一七八,四三九	五四五,〇四八	二八八,七八九	二〇三,三〇八	一七〇,七五六	五一一,三七八	二,〇四六	三一三
鹽	七七六,五五七	九七五,一三四	七七七,九七八	七四七,三二八	五七四,二九一	三一八,六二四	三九一,〇九五	五六三,〇三三	五一一,一一八	六〇三,三二八
乾檳榔子	二四九,七八八	八九二,八七八	九五〇,四四八	六九三,六六四	三三〇,六九六	二〇三,六八六	二一三,六七八	三一三,五九〇	四〇〇,八五〇	五五一,七一三
小荳蔲	三三一,九三五	七五六,九九〇	七三三,六八二	二九九,九五四	二四四,九四四	四三二,八三八	二一〇,〇一〇	三四一,三五九	三三六,三三五	三六七,五一三
木炭	八九,七九六	九二,七八三	九六,二七〇	九九,八二九	七六,二六九	七九,三三九	一一六,二五四	二四一,八〇二	二九,六五一	一〇八,一九九
コプラ	一九一,九三四	五,三一九,八二四	三,六八七,四一二	二,三一八,九九九	一,一六四,三五四	四九一,四四五	一八一,六六七	四七,八五一	三五三,五一〇	三七五,四〇〇
獸皮	一,六二八,一三六	二,三六九,七三三	一,四九〇,三八一	八五一,三六三	六〇五,七四二	五九六,四一七	七三二,〇五一	八七一,一二一	一,六二〇,一〇三	二,五五六,七九六
スチックラック	三,二一三,〇九五	三,九二五,七一七	四,七五八,四〇五	九〇三,〇三〇	一八八,二〇六	七六,四九六	一,〇〇八,二二五	二,八〇六,六八七	一,三三六,九五六	一,六〇六,六九一
皮革	三七〇,四一〇	二四九,五二八	二三四,三〇二	二〇〇,四六五	一四六,七五一	七九,七四三	九八,八三三	七二,六一三	五四,〇〇八	一〇一,四六六
黒絹反物	一,一四〇,〇一四	七九八,四九五	七三三,六六六	六一九,九六一	四四五,六〇五	三八四,〇六九	三五三,一二八	五一八,三一二	三五七,九二四	三七九,三七三
煙草	八二七,四五七	七九八,一七五	六二五,九三二	六五七,二九三	三四五,〇九九	一六八,四九七	一九七,六七三	二一九,二三七	二三六,九二八	三〇一,三三八
其他商品	四,二九四,五三三	四,〇三七,七七八	五,三三五,八四五	五,五一二,五四九	六,三八一,六八二	四,九三二,五五五	二,八四九,八三五	三,三六四,一七〇	二,九八八,六二一	四,五三四,七四五
再輸出品(註)	七,〇六四,三三五	六,〇一〇,七八五	七,四〇八,三一六	四,五八三,九二三	二,七二一,四三二	二,〇七五,六九五	二,〇〇四,四九六	二,八四四,四七二	二,五八一,六三七	三,三一四,八三二
計	二七六,〇六〇,〇三九	二五二,四二七,三九五	二一九,五四九,二六九	一五九,八八一,六五〇	一一六,九〇八,一一九	一三九,三三九,四四七	一三九,七九三,六四一	一六一,〇三六,九九五	一四九,三一二,九六三	一七九,三八四,七三〇
地金・鑄貨	二〇九,三二四	四七,三八九	一八三,六二四	一,六三七,二四一	一七,二九八,七二一	一三,一九三,〇四七	一,二八五,三七三	一二,五五七,八七五	八,九〇五,三六〇	四,九七六,四二三
總計	二七六,二六九,三六三	二五二,四七四,七八四	二一九,七三二,八九三	一六一,五一八,八九一	一三四,二〇六,八四〇	一五二,五三二,四九四	一四一,〇七九,〇一四	一七三,五九四,八七〇	一五八,二一八,三二三	一八四,三六一,一五三

〔註〕 暹羅の再輸出は殆んど全額が委託品即ち市場を發見し得なかつた輸入商品の再輸出である。

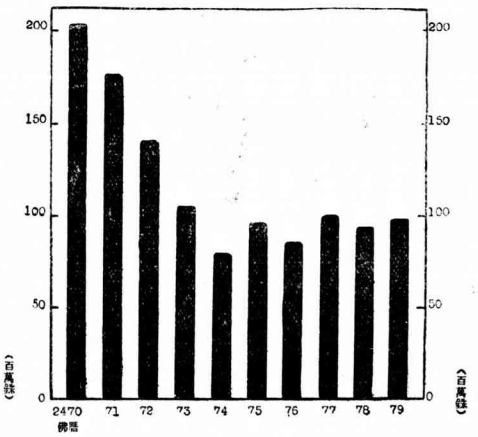
以上の内新嘉坡、香港、及彼南よりの輸入は主として仲繼貿易であつて、彼南よりのものに關しては未だ統計の發表がないが、新嘉坡及香港よりの輸入品に就てその主要原産國を示せば次の如くである。(單位＝銖)

	香港經由	新嘉坡經由	計
日本	一,二三三,二五三	一,六〇五,九九〇	二,八三九,二四三
臺灣	二二四,八五七	九六九	二二五,八二六
以上計	一,四五八,一一〇	一,六〇六,九五九	三,〇六五,〇六九
支那	七,三四七,一七三	一四一,一八八	七,四八八,三六一
印度	一,〇二〇	二,〇八四,八四四	二,〇八五,八六四
蘭領印度	四二,五〇三	七,三七四,七九五	七,四一七,二九八
英國	一三一,七七五	一,四九三,七八二	一,六二五,五五七
米國	五一一,九八七	一,〇二一,四四〇	一,五三三,四二七

第三圖　最近十箇年暹羅米輸出量



第四圖　最近十箇年暹羅米輸出額



既述せる如く、米は暹羅の輸出貿易の五〇%以上を占め、輸出米の消長は直ちに暹羅の國民經濟を左右する程重大な地位を有するものであるが、最近十箇年の統計に依つてその量額を圖示すれば、第三圖竝第四圖の如くである。

一九二九年擔當七・三七銖を示してゐた米價は以後漸落、一九三四年を底として最近稍々恢復の兆ありと雖も尚不振にして、F・O・B價格に付之を表示すれば次の如くである。（單位＝擔當銖）

	一九三二—三三年	一九三三—三四年	一九三四—三五年	一九三五—三六年	一九三六—三七年
白米	四・一五	三・九二	三・七五	四・六〇	四・六二
白碎米	三・〇二	二・四八	二・三八	二・九二	三・一〇
白粉米	一・四七	一・〇四	一・一〇	一・八三	一・八八
玄米	二・九一	三・〇〇	二・八九	三・四一	三・〇六

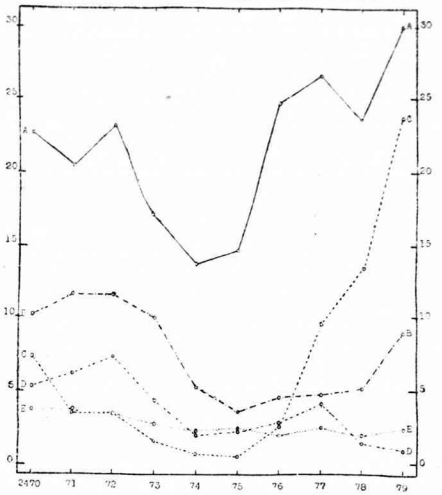
暹羅米輸出市場として各國の占むる位置を示せば次の如くである。

	一九三五—三六年	一九三六—三七年
香港及支那各港	二四・四%	二二・二%
新嘉坡	三五・〇%	三六・五%
印度・錫蘭	一六・七%	七・二%
南阿	二・一%	〇・八%
歐洲	四・三%	九・九%
日本	二・八%	三・〇%
西印度	九・八%	八・八%

尚、米以外の重要輸出品の最近十箇年の趨勢をグラフに依つて示せば第五圖（一八頁）の如くである。

次に國別輸出貿易を見るに、日本は一九三五年以來碎米の輸入制限緩和の爲め漸增し、暹羅輸出總額の二・七六%に迄漕ぎつけたが、輸入貿易の二五・六八%に比すれば、その片貿易調整の問題も隣接諸國への通過貿易（輸入額の三・四割と推定さる）を控除して考へても尚未だ前途遼遠の觀がある。支那は國內產米保護の立場から暹羅米輸入制

第五圖　暹羅重要輸出品（米を除く）價額



限を續行せる爲め漸減を續け、その仲繼港たる香港もその影響を蒙つてゐる。輸出增進の特に目立つてゐるのは彼南英國、比律賓等である。因みに、香港及び新嘉坡は主として米及木材の仲繼地、彼南は錫及びコプラの仲繼地となつてゐる。

主要仕向國別輸出額表

（單位＝錢）

	一九三五—三六年 錢	一九三五—三六年 總額に對する比率 %	一九三六—三七年 錢	一九三六—三七年 總額に對する比率 %	增減
新嘉坡	四八、〇四七、四八九	三〇・三七	五一、五〇四、三一一	二七・九四	(+) 三、四五六、八二二
彼南	三五、六七八、八六〇	二二・五五	四九、三三〇、六三九	二六・七六	(+) 一三、六五一、八七〇
香港	二六、八五四、六四五	一六・九七	二六、三六九、〇五八	一四・三〇	(−) 四八五、五八八
西印度	一一、六五八、四七三	七・三七	一五、一四五、六九四	八・二二	(+) 三、四八七、二二一
印度	一一、二八六、九五二	七・一三	六、一五二、五八五	三・三四	(−) 五、一三四、三六七
日本	三、二四六、八二五	二・〇五	五、一〇五、二七八	二・七六	(+) 一、八五八、四五二
臺灣	九、六〇三	〇・〇一	八、二四一	—	(−) 一、三六二
計	三、二五六、四二八	二・〇六	五、一一三、五一九	二・七六	(+) 一、八五七、〇九一
錫蘭	三、一〇七、七六四	一・九七	一、五七六、四六九	〇・八六	(−) 一、五三一、二九五
支那	二、四六七、一二六	一・五六	一、五四七、九五〇	〇・八四	(−) 九一九、一七六
南米	二、三五一、九四五	一・四九	一、一一六、三〇七	〇・六一	(−) 一、二三五、六三八
和蘭	一、八六九、八九二	一・一八	三、一八四、五〇〇	一・七三	(+) 一、三一四、六〇八

馬來諸州	一、四六六、一六六	〇・九三	二、七六九、五〇一	一・五〇	(+)	一、三〇三、三三五
南阿	一、六八八、四三七	一・〇七	二、一一七、七七九	一・一五	(+)	四二九、三四二
蘭領東阿	一、三三六、二七二	〇・八四	一、五八八、九一一	〇・八六	(+)	二六二、六三九
英國	一、三〇六、九九〇	〇・八三	三、九六四、七〇〇	二・一五	(+)	二、六五七、七一〇
比律賓	七、七〇八	—	三、七二〇、七九〇	二・〇二	(+)	三、七一三、〇八二

四 對日貿易

日暹貿易の過去を顧る場合、我國は長く入超の立場にあり、一八九六年以來約四十年間の統計に就て見れば、我國の出超を記錄されてゐるのは、一九一八年—一九二〇年及び最近の一九三三年以後のことに屬するのであつて、爾來邦品の暹羅市場に於ける躍進は目覺しく、一九三五—三六年度に於ては遂に第一位を占むるに至つた。一九三六—三七年度に於ける日本よりの直輸入額は二八、二五八、七四五銖(總輸入額の二五・六八%)、日本への輸出額は五、一〇五、二七八銖(二・七六%)を示してゐるが、輸入に於ては新嘉坡及香港の仲繼竝に臺灣よりの輸入を通算すれば、三一、六六二、五〇一銖に上り、輸入總額の二九・一%に當り、一九三五—三六年度に於て暹羅輸入貿易界に君臨するに至つた邦品は本年度も依然として最優勢の地位を占めてゐる。

暹羅市場に於ける日本品は從來輕工業品或は粗製品に於て優位を占めてゐたのであるが、近來漸次精製品及び重工業品に迄及び、粗製品の供給は却つて支那、蘭領印度、英領印度等の進出を見る傾向にあつたが、一九三六—三七年度に於ても此の傾向は顯著に看取される。左表は最近三箇年に於ける日本品が重要地位を占むる貿易品の價格及その總輸入額に對する割合を示せるものである。

主要日本品輸入額及割合表　(單位=千銖)

	一九三四—三五年		一九三五—三六年		一九三六—三七年	
	價額	%	價額	%	價額	%
罐詰鰯	二二〇	九六・九	四〇一	九四・三	三七六	八七・〇
玩具類	一五四	九〇・六	一三五	八九・二	九六	八一・四
人絹製品	二、三二五	九〇・三	二、四二三	九五・一	三、四九九	九六・六
セルロイド製品	一〇二	八八・六	七九	八四・四	一一四	八三・八
帽子	四六二	七七・八	三四六	七二・五	二九〇	六四・五
綿製品	一二、四二〇	七二・五	一二、六二九	六六・九	一三、三八一	七九・九
メリヤス製品	一八〇	七二・三	二七八	六四・二	一五五	五九・一
硝子製品	三二九	六八・三	三九七	六一・二	五二〇	六五・四
護謨製品(タイヤを除く)	四四四	六五・一	三三七	五八・五	七六三	七八・七
鰯以外の罐詰魚	四三	六三・二	二一	七〇・四	三一	六四・六
麥酒	一九二	五八・九	一九七	五八・六	二五一	五八・九
時計	六四	五四・二	六〇	三四・九	九三	三五・三
刷毛	三四	五四・〇	四九	五八・三	四九	五六・二
ニツケル製品	四五	五三・二	三七	四七・三	三五	四九・四

機關車	三六四	五〇・一	二一〇	三四・二	二二六	五五・二
罐詰以外魚	二三一	四六・四	四〇〇	五二・一	一七七	三一・一
自轉車及部分品	一一九	四三・九	七九	二四・七	二五七	四三・〇
ラムプ及同部分品	一四	四三・八	一四	四四・三	四五	一四・〇
馬鈴薯	六五	四二・五	七九	三四・一	一四	四四・二
自動車タイヤ	五一一	四一・三	三五二	三四・五	二三	一三・七
紙類	一三六	四〇・四	一一五	三六・一	三六三	二八・〇
皮革及同製品	二二一	三八・二	二六一	四一・七	五〇	一九・五
粗製陶器	一一二	三六・一	一二七	三六・九	一〇九	二一・五
文房具	三、〇二八	三五・八	四、四八八	五〇・九	八三	二五・三
鐵製品	四三	三五・〇	八七	五〇・九	四、三三〇	五二・三
絹製及綿製洋傘	二二二	三四・二	一八七	五八・一	八五	五六・三
茶	五六	三三・九	四九	二二・五	三〇三	三〇・二
洋灰	二二	三二・八	三五	五二・四	八一	三九・五
刺繍及レース	六七	三一・六	二二一	四一・三	九二	四四・八
毛製品	一七	三〇・九	一九	三六・六	一二	三六・九
喫煙用具	六四	三〇・九	八八	四四・六	一二	一二・二
石鹸	八五七	三〇・三	一、四八三	四二・三	一、〇二七	三六・五
綿絲						

反物	四五	二九・六	七三	三六・五	四八	二四・一
タイヤ用チューブ	三九	二八・一	三六	三八・二	三一	三一・〇
眞鍮製品	八一	二七・六	七七	二一・六	一〇四	二三・七
樂器	二二	二七・二	三五	二八・〇	二六	二〇・一
鐵材	一〇	二五・〇	一六	二二・六	三〇	二九・一
ペイント	八七	二三・一	三五四	三四・八	一四八	二七・一
アルミ製品	三六	二〇・五	七一	三九・五	一四六	四四・一
電氣材料	三〇四	一八・〇	二七九	二三・七	二八七	一一・六
ヘンプ製品	四一	一六・七	四〇	一六・六	八	三・二
精巧陶器	四	一六・〇	五	二三・五	三	一二・三
學術用器械	五五	一五・三	七三	二三・二	七一	二〇・四
化學製品	一三六	一三・七	一八六	一七・三	二五二	二一・五
銅製品	三	一三・三	六一	六五・八	五	一五・六
錫製品	二八	一一・二	二八	五二・二	五二	二九・七
家具其他木製品	一七	一一・二	二九	一三・九	五〇	二五・三

次に日本への輸出は一九三六―三七年度五、一〇五、二七八銖にして、前年度に比し一、八五八、四五三銖の増加を示し、總輸出額に對する比率は二・七六％であつた。臺灣及び朝鮮を加へれば、五、一一七、六一九銖、總輸出額の二・七七％である。對日輸出額の著しく増進せるは、白碎米、棉花、獸皮、護謨、チーク等で、重要品の對日輸出額及び總

輸出額に對する割合は次の如くである。

	一九三四—三五年		一九三五—三六年		一九三六—三七年	
	價額（銖）	%	價額（銖）	%	價額（銖）	%
白米	二、五六一	—	一八	—	一八三	—
白碎米	四一、三二一	〇・一	一、九四七、九三八	六・四	二、四二〇、〇五三	七・三
鹽	二七、五〇二	四・九	六、〇〇〇	一・二	—	—
棉花	三、二四六	一・一	一一、六七八	七・七	一五五、六二八	六四・一
獸皮	九、八二四	一・一	五九、二四三	三・七	二九三、八二一	一一・四
護謨	一九、五〇八	〇・二	六〇、五五九	〇・五	四六一、一九六	二・一
スチツクラツク	一、八八六	—	五、五一一	〇・四	二四、四四四	一・五
チーク	五一一、八九四	一〇・七	七五七、六八五	一四・四	一、一七六、九八四	一三・七
花櫚材	八一、六二四	五七・〇	一〇〇、七二四	六四・三	九九、三一〇	四四・五
柴檀材	一三、二三八	八・四	八、一六一	七・九	二、三〇八	一・四

五 臺灣の位置

遲羅の貿易統計に依れば、一九三六—三七年の臺灣への輸出額は八、二四一銖、臺灣よりの輸入額は八、六八七銖であるが、之に香港・新嘉坡よりの仲繼輸入額を加へれば輸入額は二三四、五一一銖となる。直輸出入額は遲羅貿易の何れも〇・〇一%内外に過ぎず、仲繼貿易額を加へて輸入額が漸く〇・二%となるが、何れにして甚だ貧弱なる位置を占むるに過ぎない。之を表示すれば次の如くである。（單位＝銖）

	一九三五—三六年	一九三六—三七年
臺灣への輸出	九、六〇三	八、二四一
臺灣よりの輸入		
直輸入	一〇、六七九	八、六八七
香港經由	一六二、九三〇	二二四、八五七
新嘉坡經由	四〇	九六七
計	一七三、六四九	二三四、五一一

次に臺灣總督府財務局統計に依り臺灣對遲羅の品別貿易の概況に付表示すれば次の如くである。

臺灣よりの輸出　（單位＝圓）

	一九三六年	一九三七年		一九三六年	一九三七年
生蔬菜	—	五九八	穀粉及澱粉	—	七、三七六
龍眼	五、四八〇	一、九七五	包種茶	五一九、六四五	五〇八、〇〇六
粉茶	四、八七〇	—	砂糖	三八、〇五三	二六、〇八〇
藥材	—	一、五二六	黃麻	—	二、七六八
麻織物	六四〇	—	洋紙	五、四九三	四、二五六
板紙	四四、七七三	三八、三六二	ウオールボート	二、四二四	三、六四五
石炭・粉炭	—	五八、一七五	洗面器	二、二九三	四、九八〇

琺瑯鐵器	三、六一二	一、六八七	醫療器具	—	一、二一一
其他	九六	二、六七七	計	六二七、九九五	六六二、七二四

臺灣への輸入（單位＝圓）

	一九三六年	一九三七年		一九三六年	一九三七年
胡椒	一五、八四五	一七、九八八	海參	二〇九	三、一七一
燕巢	三、二四三	七、二六一	牛皮及水牛皮	四、七九七	一、五一三
水牛角	八、九五一	五、三一四	鹿角	二、〇〇一	三八、三六三
丁香	一九一	三九一	沈香	三四、八三〇	三、〇六三
白檀	六七、九三九	七二、五二三	栲皮	一、七一〇	四、四〇〇
阿仙藥	三、六六五	五、〇八七	木香	—	三、八三五
其他藥材	一九、八二九	二八、〇七六	染料・顏料	四、二一七	五〇三
石及石製品	三、八六六	六一	木材	一四、三六八	
其他	一八、三三三	一三、四三〇	計	二〇七、二六八	二〇六、八三九

六 港別貿易

暹羅の外國貿易は大部分が盤谷港を通過するもので、其他の諸港は輸入に於て六・四％、輸出に於て一六・五％を占め、輸出入全體として見る時は僅に一二・七％を占むるに過ぎない。輸出に於て稍高率なるは半島部に產出する錫、護謨が產地より直接馬來海峽植民地方面に輸出せらるゝ關係に依るものである。

港別貿易額表（單位＝銖）

		一九三五—三六年	一九三六—三七年
輸入	盤谷區	九七、四九三、六〇二	九七、六九一、八六八
	プーケット區	六、七〇四、一一八	七、〇四四、三四八
	ナーコン・シータムマラート區	四、五五六、五六五	五、三〇七、四三二
	計	一〇八、七五四、〇四七	一一〇、〇四三、六四八
輸出	盤谷區	一一五、七六五、六四四	一二四、二六三、七八二
	プーケット區	二四、一二〇、一一一	三〇、六〇一、九七一
	ナコーン・シータムマラート區	一八、三三二、五六八	二九、四九五、四〇〇
	計	一五八、二一八、三二三	一八四、三六一、一五三

○暹羅佛曆二四八〇年貿易統計概要

（暹羅日本商工會議所調査）

一、佛曆二四八〇年暹羅國貿易額（銖）

	佛曆二四八〇年	佛曆二四七九年	佛曆二四七八年	佛曆二四七七年
輸出	一〇二、九一九、五六八	一二四、〇八五、三九〇	一一五、六六三、〇三三	一二八、七四四、六八九

盤谷港	輸入	九五、五六五、一四二	九七、五七六、五三九	九七、四〇八、五六五	八九、九九三、二四一		
	輸出入合計	一九八、四八四、七一〇	二二一、六六一、九二九	二二三、〇七一、五九八	二一八、七三七、九三〇		
	輸出入差引	+ 七、三五四、四二六	+ 二六、五〇八、八五一	+ 一八、二五四、四六八	+ 三八、七五一、四四八		
地方諸港	輸出	六六、七二一、四三二	六〇、二七五、七六三	四二、五五五、二九〇	四三、八五〇、一八一		
	輸入	一六、三四〇、五四三	一二、四七二、六六〇	一一、三四五、四八一	一一、七三三、四八〇		
	輸出入合計	八三、〇六一、九七五	七二、七四八、四二三	五三、九〇〇、七七一	五五、五八三、六六一		
	輸出入差引	+ 五〇、三八〇、八八九	+ 四七、八〇三、一〇三	+ 三一、二〇九、八〇九	+ 三二、一一六、七〇一		
暹羅國	輸出	一六九、六四一、〇〇〇	一八四、三六一、一五三	一五八、二一八、三二三	一七二、五九四、八七〇		
	輸入	一一一、九〇五、六八五	一一〇、〇四九、一九九	一〇八、七五四、〇四六	一〇一、七二六、七二一		
	輸出入合計	二八一、五四六、六八五	二九四、四一〇、三五二	二六六、九七二、三六九	二七四、三二一、五九一		
	輸出入差引	+ 五七、七三五、三一五	+ 七四、三一一、九五四	+ 四九、四六四、二七七	+ 七〇、八六八、一四九		

二、盤谷港地方諸港主要輸出入品價額

盤谷港	佛曆二四八〇年	佛曆二四七九年	地方諸港	佛曆二四八〇年	佛曆二四七九年
米 價額(銖)	七三、一九一、二五〇	九三、〇三一、三六八		二、三〇五、〇〇三	二、九一三、〇七六
米 數量(擔)	一七、七六四、五二五	二五、〇七九、〇八四		六二〇、二九四	八八二、〇三三
錫鑛	八、六五〇	二、九五九		三七、五一九、五七三	二九、八〇六、四三〇
護謨	一、九二八、二三三	一、一九八、〇九九		二〇、五九八、四七一	二二、二七二、五四四

輸出之部				
チーク	九、一八〇、九九三	八、六五一、七三〇	—	—
其他の材木	六〇七、六八八	六五五、八三七	三八八、八六一	三八九、一五八
地金貨幣	二、五三四、七〇三	三、六一六、五六四	七〇〇、七一八	八六〇、〇七三
其他の商品	一二、八五二、八七六	一四、五三六、六八六	六、二九八、三八五	三、四九八、九七一
再輸出品	二、六一五、一七五	二、三九二、一四七		
計	一〇二、九一九、五六八	一二四、〇八五、三九〇	六六、七二一、四三二	六〇、二七五、七六三
一般商品	九三、六〇六、二五八	九五、〇六七、八四一	一六、〇二八、三六六	一二、二二一、一六四
政府分	一、七七一、一〇九	二、一三八、四九八	—	—
酒類	一、二六七、〇〇五	一、三二三、三六五	三〇八、一二一	二四八、六六四
政府分	四、四三八	四、五五五	—	—
輸入之部 金葉	一〇七、四八七	九〇、一五三	四三六	一、四一一
地金貨幣	五八四、三九二	八六五、九六六	三、五二〇	一、四二一
阿片	—	二二九、二一四	—	—
計	九五、五六五、一四二	九七、五七六、五三九	一六、三四〇、五四三	一二、四七二、六六〇

三、盤谷港及地方諸港輸出品

品名	盤谷港 數量	盤谷港 價額(銖)	地方諸港 數量	地方諸港 價額(銖)
水牛頭	二、八〇五	一一六、一二〇	二、三二九	一一五、〇五五

黄牛頭	八五五	二八、四九五	五八四	二四、七〇〇	
鶏・家鴨羽	八、六一六	八、七五三	一、九六八、三八一	六〇一、八〇九	
豚頭	—	—	一〇、一三二	一八九、七二六	
豆類	三二四、二八二	一四七、四五一	一、八二八	四、八一七	
鳥巣 〃	二〇四・一八	一二七、三三九	六七・六一	七、三四一	
乾唐辛 〃	二八、一五七	三五七、一九八	六二〇	七、二七〇	
家鴨卵 個	三一、五七六、三七九	五一三、九六二	三〇、三一五	六三二	
生魚擔	—	—	七、四四九	七〇、三五七	
鹽プラトウ 〃	二、一五二、一一九	七一五、二一二	一三、二八一	九二、六六五	
鹽ヒラメ 〃	一二四、三三〇	五四五、〇八〇	四九、四一〇	四四四、四七三	
ザボン 個	三、二二九、八四二	一八五、七四九	—	—	
其他の果實 〃	—	—	—	五二、五三〇	
乾貽貝 擔	一四、一四八	一七七、二四七	二六	二七〇	
乾玉葱 〃	一〇六、五二〇	二一七、四八二	一七、二四五	六〇、五五六	
米 〃	一七、七六四、五二五	七三、三七八、五三七	六二〇、二九四	二、三〇五、〇〇三	
鹽 〃	一、六九一、四五三	八〇一、九三八	六七、四九八	一六、四四七	
樹種子 〃	一四、二一〇	一二九、七六八	一六九	一、九五六	
砂糖 〃	一六二	一、〇〇六	三〇・〇四	三八三	
乾檳榔子 〃	—	—	九四、四一六	七〇五、三一六	

ガーダモム 〃	五、一二七	一二〇、八九三	—	—	—
荳蔻 〃	一四、七一二	一三五、七一二	—	—	—
洋灰瓩	一七五、七六四	四、一五一	—	—	—
木炭擔	二九、八三三	五八、八三三	五三、一一二	五五、八三四	
大竹 〃	七一八	一、四三六	五〇、九五六	四五、一五〇	
コプラ 〃	一六、〇六〇	一二〇、二二五	五八、五五四	三三〇、三五〇	
棉花 〃	一三、八五一	二九二、四七九	—	一三四	
ダマル 〃	四二四、六三六	八〇、七九三	一〇、五二一	一一二、五七七	
ガムボーチ 〃	二、二二三	三五、八一九	—	—	
安息香 〃	一、八七六・五三	二〇、八五〇	—	—	
獸皮 〃	一四三、六九六	二、九〇二、九七二	三、二一一・八一	六四、六七二	
獸骨・獸角 〃	四、八〇五、九二五	一〇四、九一一	—	—	
象牙 〃	五〇・五五	二二、六〇二	—	—	
ヤン油 〃	二四七	三三	八、七五一	三二、三七五	
護謨 〃	二、五六一、二八一	一、九二八、二三三	二二、八一三、七九八	一八、五九四、九四九	
屑護謨 〃	一七二、一〇六	九〇、八七四	五、二九九、九三五	二、〇四九、八四五	
アルマデイロ皮 〃	四、二五二	二四、二九二	—	—	
蛇皮 〃	—	—	一九五・〇一	二一、九六八	
ステイクラツク 〃	四四、三六四	四一八、九四二	二一	二三一	

錫鑛石 擔	九七・一六	八、六五〇	三六七、九八七・〇二
チーク 立方屯	六九、四四九	八、三四九、六〇三	—
マイヤング 〃	四、〇八〇	一九五、五五二	七、五七二、八八
紫檀 〃	三七、四八三	一〇一、二五一	—
黑檀 〃	三、二四四	一七、八四一	—
花梨 〃	七二、四九七	一二二、六六九	—
其他の材木 〃	—	—	九六、一一〇
薪木 擔	—	—	一、〇四八、〇九四
黑絹布卷	三一、三七〇	四二、九二五・八	—
鬃皮 擔	一、三七七	一二〇、六六四	—
煙草 〃	八七七、〇四〇	二九九、九三三	二〇・〇二
松明 〃	〃五、九二八	三〇、四九〇	一、〇〇二
地金の貨幣	—	二、五二九、七〇三	六、七九一
其他商品及再輸出品	—	七、一六八、九〇二	二、五四二
			七〇〇、七一八
			一、九〇五、〇五三

四、盤谷港一般商品輸入統計（自四月至三月）

佛曆二四八〇年

品名		數量	金額（銖）
ビスケット	瓩	六五、七八五	一一三、四三六
バター	〃	六四、二一〇	八三、一二九

佛曆二四七九年

數量	金額（銖）
五四、三六八	九一、九〇〇
六七、七三八	八八、七〇〇

サーデン罐詰	瓩	一、二八六、六六五	三二〇、五六〇
鮭罐詰	〃	三、二〇九	四、一七六
其他魚類罐詰	〃	七二、四二一	三四、四二一
魚（罐詰以外）	〃	一、四二九、四三三	三七八、一九六
蕞粉	〃	九、八七四、三〇〇	一、〇七四、五八五
人造バター	〃	一七三、一一七	一一三、一八〇
煉乳	〃	一〇、四〇六、八六四	三、一二一、二八三
其他のミルク製品	〃	二二七、三二〇	三二九、八四九
砂糖	〃	三〇、三一七、七四四	二、七五三、八九七
糖蜜	〃	八、八三七、五一五	四八六、五四一
葉茶	〃	五八九、一〇三	五八九、一四二
粉茶	〃	一三七、〇七〇	一四一、七七六
洋灰	噸	二、六〇三	五三、九四三
石炭	〃	四〇、二〇三	五五〇、一四六
コークス	〃	一、九八四	八六、九八三
石油	立	三一、〇六四、一六二	二、七三三、八一八
ベンヂン油	〃	二二、四五一、三七二	二、四九一、三一九
液體燃料	〃	四八、五五三、八五四	一、七七一、九八四
木材	立方米	六五、三三五	九、九五一

サーデン罐詰	瓩	一、八八九、〇二二	三九二、〇七二
鮭罐詰	〃	二、九六四	三、二八七
其他魚類罐詰	〃	八九、二九八	四二、五七〇
魚（罐詰以外）	〃	一、七三七、六四三	五〇六、四〇八
蕞粉	〃	一四、六三五、一七一	一、三九三、三〇七
人造バター	〃	一五九、〇五二	九九、六二二
煉乳	〃	九、九一六、七四九	二、九五〇、七六七
其他のミルク製品	〃	一八〇、六七九	二五六、九九〇
砂糖	〃	三八、五六八、〇八三	二、八〇四、八六七
糖蜜	〃	九、九一〇、九一七	五二六、一七三
葉茶	〃	七六六、三一九	七六二、二八〇
粉茶	〃	一四四、九六六	一三四、〇四〇
洋灰	噸	一〇、三〇五	一五三、七三二
石炭	〃	三九、五四九	三九五、五五六
コークス	〃	一、七六一	五九、七三八
石油	立	四二、六七一、六〇九	三、〇二三、二九〇
ベンヂン油	〃	二二、〇〇五、一九六	二、九一七、三〇八
液體燃料	〃	四一、三二六、〇八四	一、四六〇、二〇二
木材	立方米	一二七、九七五	二三、七三〇

小銃弾	個	一、一八二、六二八	六四、七三二	一、〇一四、二五〇	五三、四三八	二二七	二三八、五三八
小銃	〃	五、一〇七	一五六、七三七	二、七〇五	八九、九六一	三〇〇	七一八、七〇〇
蠟燭	〃	二、七五五	二、四〇七	六、五七五	五、二一七	五〇	二〇、七五七
双物類	〃	五六、三六五	一五七、〇九三	七七、五八〇	一八六、六九五	二四、二八七	五五五、一六五
自動車	臺	九二七	一、四四七、四七〇	七九九	一、一九二、四八七	二六七、二八六	二、三一八、八八七
自動自轉車	〃	二二	一一、三一六	五〇	二四、八四〇	二、六〇六	一三一、二四〇
自動車タイヤー	個	一四、九〇七	四六八、一九七	一三、五七三	三八〇、四六九	一、二一一、一七七	八六、〇六〇
自轉車タイヤー	〃	一八六、六八八	二〇六、三八一	一四〇、一一六	一三三、二二七	四三五	一〇五、九一〇
自動車チューブ	〃	九、〇六九	四一、二五五	一、一四四〇	五一、〇〇九	三八、八八〇	三二九、七七七
自動自轉車チューブ	〃	一四八、三六四	四九、四六三	一四五、六四八	三九、五二三	二〇九、二二五	三二、一一六
染料（アニリン色素）藍	〃	二一九、九二九	二七八、八七五	一七一、八二二	二〇六、一三九	九九四	一〇九、四八二
電氣用品	〃	一八一、八七五	一四七、四四九	一八四、三六四	一六二、二五六	棒鐵 噸	一、一七七
麻袋	個	二、三二八、七六七	二、六五七、五二四	二、〇二五、八四〇	二、二三七、八九九	ミラノ鐵 〃	四九、四〇七
綿製メリヤス	疋	三一、七五七	三、〇八七、四二七	五四、九七七	五、二八一、九三八	其他 〃	一、八四五、八一四
絹製メリヤス	〃	六六、〇六三	一六一、三七三	九一、六九二	一九七、〇五〇	板鐵 〃	三〇六、七五八
毛絲メリヤス	〃	七二三	六、五一一	五九一	四、四〇七	亞鉛引鐵板 平型	一、三二三、八一八
帽子	〃	二、〇二九	一一、六八三	一二、六二〇	六〇、七八二	浪型 〃	四四六、二〇二
洋燈	個	二六五、〇一八	三七一、二四九	二九八、四二二	四三〇、五九六	ワイヤネイル、スクリュー	二、〇四〇
		二六六、五五五	二二八、〇八〇	二〇八、〇九三	二二九、五二五	鐵道用材料 〃	一九七
						珪素鐵 〃	四九〇、四一二
						其他列記されざる各種製品 噸	四、五四五
						機械油 立	八七七、二三五

船舶用機關	〃	二二五	二六七、一九三	二二七	二三八、五三八		
其他の機關	〃	九三九	一、〇五八、五〇五	三〇〇	七一八、七〇〇		
精米機械	噸	二三	二一、八四九	五〇	二〇、七五七		
ミシン機械	〃	二八九	六六一、〇九七	二四九	五五五、一六五		
其他の機械	〃	二、三四六	二、三二六、四八七	二、六〇六	二、三一八、八八七		
機械用各種調帶	疋	五七、三八七	一二一、一七七	八六、〇六〇	一三一、二四〇		
燐寸箱	〃	三八、八八〇	四三五	一〇五、九一〇	六六〇		
アルミニユーム製品	疋	二〇九、二二五	三二九、七七七	二三六、八九七	三二〇、一八二		
棒鐵	噸	九五	二三、一一六	四七	八、七八九		
ミラノ鐵	〃	八九四	一〇九、四八二	一、一七七	一一〇、二八二		
其他	〃	一五、八〇六	一、八四五、八一四	一五、九七一	一〇五四、八一一		
板鐵	〃	一、六六七	三〇六、七五八	一、一三八	一三一、七一九		
亞鉛引鐵板 平型	〃	七、二九四	一、三二三、八一八	一六、二七九	一、九六〇、四四四		
浪型	〃	二、七一五	四四六、二〇二	三、三九〇	二七四、八八四		
ワイヤネイル、スクリュー	〃	四一、〇四〇	二五〇、〇四二	一、二三三	二〇五、〇二三		
ユーリベット等	〃	一九七	四一、一六七	六、三一七	六〇〇、三一八		
鐵道用材料	〃	一、二九〇	四九〇、四一二	三、〇四三	八九六、二三七		
珪素鐵	〃	四、五四五	一、四二四、九一八	四、二九二	一、一五三、二二八		
其他列記されざる各種製品	噸				五九二、二九八		
機械油	立	六、一六二、五四三	八七七、二三五	五、四二一、〇六〇			

苞麻子油	立	二二七	一六四	一	一二四、三六一
椰子油	〃	五四六、二七三	一四〇、一七五	五六八、〇二一	一
其他各種油	〃	五六二、四七六	一二六、四八七	四四一、四一五	八七、四三七
塗料	瓩	一、二〇九、六一二	四四六、九八六	一、七四二、六二二	五二〇、三六四
用紙(印刷せざるもの)	〃	七、四五八、七二八	一、五五二、三九一	八、七六九、八六一	一、二八九、七二二
化粧品	〃	一〇七、二六四	三七九、一九五	一一〇、二〇五	三二七、四四一
椰子纖維繩	〃	四〇三、〇二四	七六、九一九	四三五、四一〇	八四、四五四
マニラ繩	〃	九四三、〇八八	二九二、三八三	一、三五四、五七五	三三四、九七一
其他	〃	八三五、七〇三	一七五、六一九	九五四、四七九	一九七、〇七五
化粧石鹸	〃	二〇九、七八九	一八一、〇一三	二二六、七一一	一七六、五七〇
其他	〃	三一、八一七	一五、三六六	三五、〇三五	二二、六一四
纖物類					
バライ(切りたるもの)	瓩	一五、一〇九	一七、一六一	五八、二五〇	六一、六九九
同(巻)	巻	一八、二七一	五一五、六〇四	四六、二六八	六九五、一二三
バブン腰布	〃	三、〇二三	二八、一八二	四、七九二	三五、三七七
捺染(切りたるもの)	米	一、六二七、六一三	三〇〇、九〇五	一、六六五、六一八	二四二、九九三
同(巻)	巻	五七、二一八	四六二、〇一〇	五二、二九六	三七三、三五〇
サロン(切りたるもの)	瓩	一八、九三九	三三、七六二	五、一三六	九、三〇八
同(巻)	巻	三八三	三、六四〇	八〇	七一六

バカマ	〃	七〇、五〇二	三〇四、八〇六	六三、九二七	二四九、〇二五
更紗反		二八三、八一八	七六三、五四九	二六四、〇七八	六八三、四〇三
晒金巾	〃	四一五、〇八一	二、〇〇五、八五五	四五八、七四七	一、九一五、五九九
生金巾	〃	三四九、八八七	一、二二九、五六八	四六三、〇一九	一、一九八、七五五
染金巾	〃	八〇五、四五二	一、三二四、五一四	一、三二八、六五三	一、五三七、〇八六
絣金巾	〃	一〇五、五八一	二五九、六五五	九八、六九二	二一三、九一三
染人絹ブロケード	疋	一九二、八二三	四〇五、一四四	三七七、一一五	七二三、三二一
捺染人絹ブロケード	〃	一一三、四五九	二三三、九八一	三〇七、六二八	六五四、一八七
捺染綿ブロケード	〃	三九	二一四	二二	一九二
絹ブロケード	〃	三二	六八五	六六	一、一〇七
白又は染ボイル	〃	六四、〇五〇	三二八、八九一	七四、七九五	三三五、六七六
捺染ボイル	〃	四、二五六	一一、八五七	一二、八五五	一九、六七一
ファンシーボイル	〃	二、一一四	六、四三六	五〇二	一、八二四
コットンカムブリック	〃	五四九、一七三	八〇二、四八三	五三三、七〇五	七〇四、四三二
寒冷紗	〃	四八、〇〇八	九二、三二一	四七、五八〇	七八、五〇六
白綿ドリル	〃	二五、四三九	四三、六三六	一四、五二四	二一、五〇七
染ドリル	〃	六四三、三三八	九一二、四六八	四四四、八〇七	五六九、九〇〇
染コットンファッシー	疋	八一、四六三	一〇九、二九八	八〇、三五八	一〇三、一四三
綾織ファンシー	〃	一〇一、六九一	二四、一〇一	二六、一二〇	三六、四二五

レノフアンシー	疋	三、五八〇	一〇、四二七	一、〇三〇	三、九三四
染色ポプリン	〃	八八六、七四〇	五二一、四八七	九七四、二三四	一、三六九、六六三
捺染ポプリン	〃	二一八、三〇五	三四七、五六九	二九五、一八一	四二二、八二二
紋織ポプリン	〃	二二一、一〇二	三七七、二九八	二〇八、五四二	三三五、九〇七
ジ ン ズ	〃	一九二、三一四	二七一、八九一	二六一、三二〇	三四三、〇五七
白染人絹プレーン	〃	五四七、三五〇	一、〇五五、一七九	一、〇八二、六六四	二、〇三六、六八一
其他各種	〃	一、二八〇、六二三	一、八七七、三五六	一、三七九、三三五	一、八七八、五一九
肌衣打		一三四、二三四	二四八、九三九	二〇二、三六九	三九三、五二五
綿毛布疋		一、〇三五、九六四	九〇五、四七七	一、一四三、〇〇八	九二二、三五五
タ オ ル	〃	一三七、二九二	二一三、八三七	二四八、二三二	三五九、七七四
ハンカチーフ	〃	三一、九四八	一七二、七一一	五六、五一七	一七八、五七六
其他綿製品	〃	一六三、九三一	三三三、三九三	三四三、七七一	五八三、四四六
麻反物	〃	五七、六一八	一七九、一五三	四四、六五二	一五四、一六九
其他麻製品	〃	二七七	二、六七六	二六五	一、七三九
パヌン、パカマ、サロン	〃	六二九	四、〇三九	一三、六八三	二〇、六一一
絹反物	〃	一〇八、一三五	八〇〇、一一五	一四三、七六三	一、〇六九、九一二
其他絹製品	〃	五七二	七、七八一	一八、〇一七	六五、一一二
毛織物	〃	二八、〇三九	一五一、〇一六	三五、二四三	一五二、三六五
其他毛織製品	〃	三三、〇一八	七六、一一五	四一、三六一	八八、五七一

葉巻煙草	〃	一三、一〇八	三七、〇八一	一九、一四四	五〇、四七九
紙巻煙草	〃	一、三〇〇、七五二	二、七四三、一一四	一、四八九、三四六	三、三四九、五八九
其他煙草	〃	六、四八八	二四、九三一	六、八四三	二一、四四六
工匠具	〃	一、二三〇、八四〇	七四〇、一三五	一、二一九、八一三	六四一、八三四
蜜蠟	〃	一、三一〇、一五五	二八六、〇三六	一、二七一、五四二	二七一、七四九
晒綿糸	〃	三六四、八三三	四二四、一一六	一、二三六、〇三七	一、〇七〇、〇九五
生綿糸	〃	二、一三五、八四四	一、八八三、九二〇	一、一九八、八六九	九〇六、七一九
絣綿糸	〃	七、三八九	一一、六八五	四、六一九	六、二四四
絣以外の各色綿糸	〃	一〇五、四五七	一九五、二〇三	一〇〇、六二八	一五六、七八二
染色糸	〃	二〇、八八九	五七、九八二	三九、一四六	八六、〇六一
人絹糸	〃	一三八、七三一	一五六、九〇五	九〇、一〇六	八二、五一五
縫糸	〃	八八、四三七	五六六、〇四二	八五、五四三	五六九、九三〇
編糸	〃	三八、八二四	六四、三六八	三七、四八四	五〇、六四二
其他各種商品	〃	—	二五、四一四、五七八	—	二三、七八〇、六七三
ビール、葡萄酒、其他酒類					
ビール	立	一、〇〇一、一二三	二九九、九五〇	一、六一一、二五五	三八五、七五六
葡萄酒	〃	七四、六六七	七九、五八二	一一六、三九七	一〇一、〇八六
ブランデー	〃	四二、〇二六	九三、二二九	四六、〇三九	一〇四、六三七
ヂン	〃	八、〇二六	一一、三三二	七、五二六	一〇、三二一

ラム、其他 立	五一六	七二一	四一八	七六九
ウヰスキー 〃	一三八、八四三	三〇八、二一七	一二七、〇二二	二九五、〇八二
支那酒 〃	三三六、七二〇	一二三三、七五六	三七四、九三五	二三五、九八二
其他酒精 〃	六六、九八二	二四九、〇一八	六六、三五五	一八九、七三二
計 〃	一、六六八、九〇三	一、二六五、八〇五	二、三四九、九四七	一、三二三、三六五
地金銀、貨幣				
金葉 兩	一、一〇一	一〇七、四八七	九五〇	九〇、一五三
金地金 〃	—	二〇七、七七三	—	四九、七四九
銀地金 〃	—	一九二、一一一	—	四六六、二四二
金貨 〃	—	一一	—	三、六八二
銀貨 〃	—	一八四、四九七	—	二一一、九九二
銅貨 〃	—	—	—	—
白銅貨 〃	—	—	—	一三四、三〇一
計	一、一〇一	六九一、八七九	九五〇	九五六、一一九

註……兩＝三七、五瓦

五、盤谷港に於ける日本よりの月別輸入額（銖）

月別	佛暦二四八〇年 日本よりの輸入	佛暦二四八〇年 盤谷港總輸入	佛暦二四七九年 日本よりの輸入	佛暦二四七九年 盤谷港總輸入
四月	一、九二七、三九一	七、九五五、二九九	一、八六六、七〇四	七、四六五、一九五
五月	一、九九五、九四〇	八、一一三、〇〇五	二、〇九八、二七二	八、五五七、〇八四
六月	二、〇六五、四五二	七、八八二、九二五	二、三一二、四三九	七、九二三、〇六〇
七月	二、二四五、七六七	八、三四四、九七六	二、六一五、二三八	八、〇二一、九六三
八月	一、八八〇、〇六六	七、六一五、九七六	一、八四五、一七七	七、二六四、四四六
九月	二、〇三〇、二一五	八、三八一、二七五	二、一三三、七四五	七、〇七八、五一八
十月	二、三二九、五〇〇	八、〇一五、三三二	二、六五六、二一五	九、〇三八、六一三
十一月	一、九五九、〇七八	七、九四七、〇〇二	一、九七三、六八五	七、五〇五、七四〇
十二月	二、〇〇九、二四九	七、八四三、二七六	一、六一八、八一六	七、七一五、一六三
一月	一、二五九、七〇七	六、九四三、八二五	二、六二七、四四四	七、八七八、二二九
二月	一、一三九、七八七	八、〇四七、九三四	二、六四七、八四六	八、二七七、八九八
三月	一、三二八、一六九	八、六九二、六八二	三、二八四、八二五	一〇、九七〇、三八九
計	二二、一七〇、三二一	九五、七八三、五〇七	二七、六八〇、四〇六	九七、六九六、二九八

六、日本より直接盤谷港に輸入されたる邦貨の輸入狀況

品名	數量 佛暦二四八〇年	數量 佛暦二四七九年	金額（銖） 佛暦二四八〇年	金額（銖） 佛暦二四七九年
ビスケット 瓩	一、〇六一	一、一四九	七五三	一、〇九七
ビール 立	三六七、〇一四・七二	一、二四七、七二〇	七四、四〇〇	二五一、二二九
煙草 瓩	五二四	一〇	二、三〇四	五二

化學製品	瓩	一、四二〇、九二三	二、三五二、九七四	一六六、八四四	二一一、九八七
石炭	噸	一〇、四四六	一	一〇八、〇六七	七四
染料	瓩	一八、二七九	五五、六三〇	七、八五一	二七、六六〇
穀物	〃	六六、六九一	六六三、四九九	六、八六八	五五、八〇三
亞鉛引鐵板	〃	五、五二〇、五〇八	一五、八八〇、〇四五	八七八、五〇二	一、九〇七、四一七
針金	〃	四八〇、五七六	二、一四九、九四二	七二、八七六	二一五、六四三
自動車タイヤ	個	一、四八〇	二、三四八	二九、一〇九	四七、〇五六
自轉車タイヤ	〃	一〇、〇四七	二三、一三五	七、四四三	一三、五六七
自動車チユーブ	〃	三九〇	一、七七〇	二、六七六	六、九五一
自轉車チユーブ	〃	四七、三九一	七四、九三三	一二、〇六一	一五、二三一
塗料	瓩	一九九、五三一	五六八、五六八	四八、七四四	一二二、〇八八
化粧品	〃	三、七三二	一〇、七三一	六、二六四	一五、四七七
コンデンスミルク	〃	一八〇、四〇六	一、〇九〇、四四二	五三、〇一一	三一二、〇二四
エバポレートミルク	〃	一六九、〇七二	三六二、〇六九	四九、七四三	九三、八四四
ワイヤネイル	〃	一、八四一、六四三	二、四〇〇、九五六	二五八、八二八	一九二、五三三
マニラロープ	〃	九〇、八七五	一八一、三七四	二五、九五〇	三六、五一〇
化粧石鹼	〃	八二、一一〇	一二二、九八八	五一、一七五	七二、四四九
其他の石鹼	〃	五九一	一、七八六	三五九	八二五
軟鋼條	〃	七三九、〇八一	六、一二二、六四四	五一、五七〇	三七八、七〇四
葉茶	〃	九一、三九九	三三、〇九二	八七、七九三	一九、一五八
粉茶	〃	一一、〇九三	五、五六二	四、四三五	二、一四五
コットンキャムブリック	反	二四〇、七五〇	四〇四、七六三	五一六、一五〇	五二九、八〇〇
コットンヤーン	〃	四八、〇一四	四五、四一一	八四、八九二	七〇、六七三
コットンホワイトシヤーテイン	〃	二一三、三九七	三三二、一六四	一、五八七、〇七七	一、三八三、〇四五
コットングレーシヤーテイング	〃	二〇九、六二一	二三一、四二九	七一五、〇八七	六〇五、五六二
ダイドコットンドリル	〃	九二、二六一	六二、三七六	六九八、二四三	四四七、三二三
染糸	瓩	六四、八一九	六三、〇〇七	一一〇、五〇四	八九、二三三
人絹糸	〃	一二四、六五九	八九、八二九	一三九、八四一	八二、二六〇
縫糸及編糸	〃	四八、五〇〇	三三、六四三	一一三、一九八	四二、〇〇八

○日遲貿易上取殘されたる南遲地方並びに遲羅西海岸地方

（盤谷貿易幹旋所調査）

遲國に於て最も重要なる物産、錫、護謨、コプラ等の主産地として現在好況を繼續しつゝある地方は南遲羅及び西海岸地方であるが、日遲貿易上より之を見るに物産の輸出も、邦貨の輸入も共に忘れられた態である。

今「ハジヤイ」を中心とする所謂南運地方と「プケツト」「レノン」を中心とする西海岸沿岸地方との兩地方を別々にして、其の原因を探究するに、大略左の如き原因を擧げ得る。

先づ「ハジヤイ」を中心とする南運地方を考察するに

一、運送機關の不利

運輸上の點に於ての「ハジヤイ」と彼南及び新嘉坡間の連絡を「ハジヤイ」盤谷間の夫に比するに時間的に左の如き大差を見る。

1. 盤谷「ハジヤイ」間	國際急行列車(一週二回)		二十一時間
	普通列車(一日一回)		二日十三時間
2. 彼南「ハジヤイ」間	國際急行列車(一週二回)		六時間
	普通列車(一日一回)		十三時間
	自動車(一日數回)		四時間
3. 盤谷「シンゴラ」間	E・A・C定期船(一週二回)	直航	二晝夜
4. 新嘉坡「シンゴラ」間	E・A・C定期船(一週二回)	直航	二晝夜

(註、「シンゴラ」は「ハジヤイ」の外港とも稱し得べく、兩地間は自動車四十分にて達し得る)

次に之が運賃を見るに貨物に依り多少相違するが陸路は彼南よりの運賃が盤谷よりの夫よりも遙かに安く、海路は大體に於て新嘉坡よりの運賃と盤谷よりの運賃とは同樣である。

斯くの如く運賃關係に於て盤谷よりの運賃が同等又は不利であり、又時間的にも遙かに不利であるとすれば、南運地方は貨物、金融の迅速なる回轉上、盤谷との取引よりも、彼南、新嘉坡との取引を撰ぶのは當然である。

二、銀行の存在無きこと

次に數へられる大なる原因は銀行機關の皆無なる爲の對盤谷取引難である。

盤谷商人と南運商人との商取引上の代金支拂決濟の際に最も煩雜を來す問題は送金手段であつて、普通盤谷よりは盤谷に存在する銀行の小切手を送附し、送金を受けたるものは之を大商店にして盤谷と取引あるものに請ひ割引して貰ふのである。

從つて五百銖、千銖等區切良き小切手は決濟上便利な爲、高價に割引を受けられるが、端數ある小切手、例へば九十九銖八十三士丹と云ふが如きものは非常に不利となると云ふ馬鹿々々しい問題も起る。又同樣南運より盤谷へ送金せんとすれば、斯かる小切手を大商店より買取り之を送る外ないのであつて零細なる金額を丁度其金額丈送金する手段は無いのである。

然るに、彼南よりは毎日汽車自動車の便があつて沿道卽ち彼南「ハジヤイ」「タンジヨンマス」間を悉く集金に廻る爲、敢て送金の必要がない、又更に進んで金融の點に於て彼南商人は各其販賣網たる委託先に貸附を爲して居る。之が爲に彼南商人は南運小商人に對し生殺與奪の權を有し、自らの商品を購買せしむる特權を持つのである。

而して誠意ある者に對しては徹底的に援助するから、彼南との連絡ある者は繁榮し、連絡なき者は敗退する事となる。

錫は新嘉坡或は彼南へ精錬の爲に、護謨、コプラは格附されて世界市場に送られる爲に、之等物産の何れもが彼南に送らるゝ爲、彼南商人は如何なる援助を爲しても殆ど貸倒れの憂なく、安んじて金融又は委託出荷を爲し得る爲で

ある。斯くの如き實狀だから南暹市場は悉く彼南商品の販賣市場となつて居るのも敢て怪しむに足らぬ。

三、英系鑛山會社の繁榮に伴ふ彼南商人の活躍

次の原因は英系鑛山會社の南暹に於る潛勢力と之に伴ふ彼南に於る英國系商人の飛躍である。當國に於ては錫精錬所無き爲、原鑛は凡て彼南に送られる。從つて彼南と鑛山業者との關係は極めて深く、何れも本社又は出張所を彼南に置く關係上、鑛山の需要品は凡て彼南から供給されて居る。單に需要品とは言ふものゝ、ドレツヂヤー、及び其の附屬品、グレーヴイングパンプ、發動機、ボイラー、私設鐵道トラツク、鑛業用衡器、起重機、等を包含すれば決して看過し得ない程巨額に達する。

次に目を轉じて「プケツト」「レノン」を中心とする西岸一帶と彼南との關係を見るに、彼南よりは一週二回「プケツト」「レノン」行の汽船があり、錫の運搬あるが爲運賃割合低廉で乘客及び貨物を悉く吸收して居る。

之に反し盤谷よりは、鐵道、自動車、汽船を併せて利用せねば之等の地方に達し得ぬ爲、時間並びに運賃關係上非常なるハンデイキヤツプが附く、從つて此等の地方は盤谷を問題とせず、專ら彼南の商品を購入する事となるのである。

次に南暹、西海岸兩地方に共通して盤谷との取引を困難ならしむる事情は邦人中間卸商の無き事である。

凡て盤谷に於る邦商は直輸出入商であり、其内で一箱、二箱に種々の品物を詰合せて田舍に送荷するものは極めて少數である。

之が爲邦品は一旦盤谷「サンペン」街の華商の手に渡り、之等の商人から田舍へ出されるのであるが盤谷に於ける華商が主に潮州人なるに對し、南暹は福建人が多く、大家族制度觀念により緣續きの商店間に於て主に取引する風習ある華商間の連絡が北部に對する如く圓滑に保たれない。

扨以上を以て南暹及び西海岸地方は彼南及び新嘉坡の勢力下に置かれる事が明らかであるが、之が對抗策として考へられる事は、日暹定期航路の「シンゴラ」乃至「バンナラ」迄の延長と、銀行機關の設置、中間卸商の介存の三點である。

即ち現在の邦品進出難を打開するには先づ日暹定期航路を南暹に延長し、運賃並びに時間を經濟的にし、販賣値段の輕減と貨物運搬の迅速を期すると共に、金融機關を設けて彼南商人の放資に依る優先權を剝奪し、盤谷に於ては邦商の中間卸商を置き南暹との連結を爲さしむる必要がある。此の三條件の具備せられたるに於ては南暹地方は始めて盤谷との完全なる連絡を得、一層日暹貿易の促進を期し得る事と信ぜらる。

西海岸地方は、急激に彼南の勢力を剝奪する事は不可能であるが、「シンゴラ」より湖水を利して、「パタルン」へ「パタルン」より自動車にて「カンタン」への順序で漸次邦品が行亘りたる時始めて「カンタン」より「プケツト」を其の勢力圏内に置き得る事とならう。

又「レノン」は、昨年開通せる「チユンポン」「タツプリー」間の自動車路に依り、「タツプリー」を經て汽車便にて運ばれる貨物が漸次增加する事と思ふ。

以上。

雜苑

○對暹文化事業雜記

日語文化學校幹事　松宮一也

筆者は日語文化學校の幹事で、去る六月外務省文化事業部の囑託を受け、暹羅に文化施設並に日本語教授機關設置の爲め渡暹され、十月歸國された。

一

今度暹羅國に日本語の教授を中心とする文化事業を實施致しますにつき、盤谷に約二ケ月程滯在して甚だ皮相ではありませうが色々暹羅の事情を知ることが出來ました。幸に仕事の方は帝國公使館、在留邦人各團體及暹羅各方面の理解ある協力援助に依り「盤谷日本文化研究所」と言ふ新しい文化施設を暹羅人の團體である日暹協會の手で創設致しまして、日本から連れて行つた二人の職員に後の發展を委せて十月初旬に歸國致しました。

「盤谷日本文化研究所」につきましては之を王城北角の暹羅人に最も便利な所に約百二十坪程の家を借りまして階上を教室に、階下を社交室、圖書室等に改裝致しまして、先づ日本語の教授から開始することになつて居ります。クラスは晝夜二部教授とし、各約百名の生徒を收容することになつてゐます。私の暹羅を立つた時には未だ生徒の募集を致して居りませんでしたが、一般の考へに依りますと多分百名位の生徒を集めるのは左程困難ではあるまいとのことでした。現に私の滯在して居りました中にも何時から始めるのかと言ふ照會が大分にあり、十月の中旬には既に開校して居る筈ですからその結果を待つて居ります。

「日本語の教授」が今度の文化事業の中心要素となるのですが、それと同時に日本的な氣質精神をよく理解する爲には、日本の文化と各種の事情を知らさなければならないので、日本語のクラスの外に色々な興味を中心とするグループを組織することに致しました。例へば男の生徒には劍道柔道であるとか、女の生徒には活花作法であるとか、其の外日本畫、讀書會など日本に關係のある事柄につき各種の興味グループを作つて日本語科の生徒を參加させ、夫々の指導者に依り教育して行きます。之に加へて、時々全生徒を中心として一般の人々も招待して講演會、展覽會、映畫會、音樂會なども開きます。つまり此の教育機關に於ては、日本語の勉學を縱の線とし、日本事情に關する興味中心のグループを横の線として日本に關する智識を與へ、教師と生徒との個人的接觸に依つて日本人的精神を注ぎ込んで行かうと言ふのです。

また此の文化施設には小さい乍ら圖書室を設け一般にも公開し、日本事情を紹介すると共に、日本文化の研究者の指導も致したい。その他日本へ來る留學生の世話をする事業とか、見學團を組織するとか、暹羅事情の研究をするとか、日本と暹羅との文化的理解を深める爲の色々な仕事を實施する計畫を持つて居ります。御承知のやうに文化事業は極めて地味な仕事で貿易や政治のやうに契約や條約を結べばその効果を見られると言ふ風には參りません。政治・經濟工作の原則である「ギヴ・エンド・テイク」で行つたら文化事業はほんとうの基礎を作ることが出來ない。あくまでその根本精神は「ギヴ」一方の直接に報酬を望まない態度で行かなければならないものと思ひます。これをしてやるからお前はこうしろと言ふやり方では文化事業は成功しない。これは特に暹羅のや

うな國に對して文化事業を行ふ場合に大切な原則であると強く感じました。從つて文化事業の効果は永い目で見また大局からその價値を判斷してもらはなければならない。そしてまた政治・經濟工作の基礎として缺くことの出來ない大切な仕事として此度暹羅で始めた文化事業の成長を期待して戴きたいと存じます。

二

それで今晩は二ケ月の短い滯在ではありましたが盤谷で得た經驗に基いて聊か暹羅と暹羅人に對する文化的事業の觀察を述べて見たいと思ひます。

第一に暹羅で行ふ文化事業は現在歐米諸國に對して考へられてゐるやうな高級研究的であるより「一般社會的」である方が望ましいと思ひます。つまり歐米諸國のやうに程度の高い、教育機關の完備してゐる國々にあつては日本を徹底的に研究しやうとする學者があり我々が驚くやうな特殊な研究が行はれてゐます。一般的に言へばその樣な徹底した研究が出來るやうな社會的餘裕があるのでせう。そして誠に結構なことであり、また日本研究が發達すれば斯くあらねばならぬと思ひます。けれどもまた社會一般が日本に興味を持ち、そんなに深い理解ではないかも知れないが日本に愛著の情を持つ。このやうな性質＝つまりポピュラリティーを持つ文化事業も極めて大切である、と考へられます。そして何處の國に對しても此の二種類の仕事が充分に行はれることを望むのですが現狀に於ては所謂文明文化の世界的標準からの遠い近いの程度に依つてそのやり方が異ふ。例へばドイツなどに對しては學問的に近づいて行き、興味中心の一般的な仕事はむしろ付け足りとなつて來るでありませう。近頃南米ブラジルやフイリツピンに於ては日本の近代音樂が大變に喜ばれ、日本の映畫なども極めて有効な文化宣傳になるとの事です。此等は勿論アメリカやドイツに對しても又フランスやイタリーに對しても有効でありませうがこれだけでは滿足しない。どうしても日本文化の深い所に觸れそれを徹底的に研究する所まで行かなければ＝つまり日本から言へば學問的なアプローチをしなければならないと言ふことになつて來るのです。所が一般に後進國と見られる國々に對してはどうも學問的に行つたのでは受け入れられ難い。つまりそれ等の國々に於ては他國の文化を徹底的に研究しやうなどと言ふ社會的餘裕が少ないからでもありませうが、もつと手取り早い、解り易い方法で行くことが必要であると思ひます。これは暹羅に對する場合でも同樣でポピュラリーテイと言ふことを第一に考へ、先づ興味を起させて次第に學問的な方面に導いて行くと言ふ方法を取らなければならないと感じました。それですから「日本文化」を研究すると言ふよりは「日本の事情」を習ふと言つた傾向が望ましく、また圖書を送るにしても、日本の歷史、地理、商業、工業、社會習慣、技藝など寫眞をたつぷりと入れて、暹羅語で平易に書いたものなどが望ましい。盤谷に居りました時、本屋に參りまして支那の小說などが薄べらなラフ紙に印刷してあつて十錢位で賣つて居るのを見て、日本のお伽噺などがあのやうにして一般に賣り出されたらと思ひました。蓄音器のレコードなども大變に結構で、家庭には勿論、活動寫眞館、カフエー、ダンス・ホール等にまで進出して、日本的なメロデイーに合せて踊り、日本語の歌を聽きながら食事をすると言ふ所まで行けば知らず知らずの中に暹羅人の頭に日本がこびり付いて來るのではないかと思はれます。

三

更に暹羅に於ける歐米諸國の文化施設を見ますと、主としてミツション事業を通じて教育機關を經營してゐるやうですが、暹羅の現狀に於てはまだ之等の教育施設は社會の一部階級に限られて居る。つまり大多數を占める一般大衆階級まではその力が及んで居ない。所謂高級です。アメリカはロツクフエラー財團を通じてチユラロンコロン醫科大學を整備するとか、盤谷對岸に立派な病院を建てるとか、チエンマイに癩病院を經營するとか醫療及社會事業の方に手を伸して居りますが、直接に又簡易に大衆が恩惠を受けるやうな仕事はどの國も未だ行つて居らないやうです。それで盤谷の街を歩き裏通りに入つて見ますと、その不衞生なことは驚くばかりである。而もこゝに一番多くの人が住んでゐる。私は咽嗟に日本の

手を付けるのはこゝではないかと感じました。未だどこからも手のつけられて居ない、而も必要缺くべからざる防貧救貧の社會改良事業を日本人の手で行ふことは極めて意味のあることであると強く感じました。この種の事業を成功致させる爲には純然たる私設の事業となし、日本宗教家の奮起を望みたい。それは佛教でも基督教でも何派でもよい。要は日本人が之を行へばいゝのである。恰度賀川豐彦さんが神戸の新川で獻身的努力を以て貧民と共に住み共に食し貧民窟の改良事業に當られたやうな大きな愛を以て日本人の篤志家が民衆と共に生活し共に苦しみ共に働くことにより心から日本に愛著を懷くやうになるのではないかと感じました。

四

次に今度の文化事業の經驗から得ました暹羅人に關する二、三の觀點を申上げて見たいと思ひます。

第一に暹羅人は日本をどう考へてゐるかと言ふと、どうも日本の一般が考へてゐる程に親日ではない。勿論排日ではありません。親日でもなければ排日でもない。けれども先づよろしい方であると言ふが當つてゐはしないかと思ひます。どうも我國の方で親日を過信してゐる嫌がありはしないか。向から言へば親善を押賣りされてゐると感じてはゐないかと思はれるのです。アメリカに行つてもイギリスに行つても社會の有力者の中に根つから親日家であると見られてゐる人があるものです。所が暹羅では自分は親日であると瞭りした態度を示してゐる有力者は始んど見當らない。特に政府の現役の相當所の者は日本と親しいと言ふことを憚ると言つたやうな態度がないでもない。これはどういふ理であらうかと思つて探つて見ると、矢張り今日までに政府初め社會一般に根を張つた歐米勢力に對する氣兼ねではないかと言ふことが感じられて來たのです。特にイギリスです。考へて見ると無理からぬ點も多くある。今日政府でも社會の有力者でもその多くはイギリスやフランスに留學をして徹底的にその國の教育を受けたものであるから、氣質の上から見ても親英的であり親佛的である。その上暹羅に於ける大事業の多くはイギリス資本に依つて成立してゐるし、佛領印度支那に隣を接してフランスとの關係も密であると言ふやうな具合で政府の役人にしろ事業家にしろ英佛に睨まれたのでは手も足も出なくなるのが實狀です。之に加へて暹羅に住む華僑の勢力は人口的にも、經濟的にも牢固として拔くべからざるものがある。現に日本と特別に深い關係を持つてゐる社會的地位もあり、手腕もある人が「親日家」であると折紙を付けられて失意の狀態にある人がありますが、このやうに親日家であると見られる故に、その活動範圍を狹められ、社會的勢力が制限せられて、日本で考へられた程に活躍が出來ないと言ふのは以上のやうな事情に依るのではないかと思はれます。この點は未だ個人生活の安定に關する社會的保障程度の低い國に於ては、充分な同情を以て見てやらなければならないと思ひます。

そこで我々として考へなければならないことは、少くとも暹羅の現狀としては親日を過信してはならない。又親日を强請してはならないと言ふことです。勿論、日支事變の終了と共に我國の東亞に於ける指導的地位が確立されて、公然と「我は親日家なり」と憚らず稱して自由に活躍出來る時代も近く逼つてゐると信じますが、それまでは餘程タクトが要ると思はれます。こゝしばらくは文化事業を以て暹羅人の心に觸れて行かなければならない。それは恰度直面目なミツショナリーが獻心的にその事業に從事するやうな心持を以て直接の報酬も利益も求むることなく暹羅人を一人一人とらへて行かなければならないと思ひます。それは永い永い行程を必要とするかも知れませんが、之が出來て初めて政治經濟的な効果が期待出來るものと思はれます。

五

これに關聯して痛感致しますことは「留學生の問題」です。今日暹羅に於てイギリスの勢力が漲つてゐると言ふのは、實質的には經濟的地位を確立してゐることでありませう。と同時に例へば外務省の對外政策は各國平等主義であると聲明してあつても、實際に當つてイギリス人顧問の存在を無視することは出來ますまい。これ以上に考へなければならないのは社會一般各部門に樞要なる

地位を占めてゐる親英暹羅人の勢力です。そしてそれ等の多くはイギリスに留學して教育を受けた者です。現在暹羅の國防省は日本に對して理解が深いと見られてゐます。これは帝國陸海軍武官の御努力にも依ること乍ら、部内の有力者の中に、例へば軍令部長、廠工長等曾つて日本に留學した人々であることを思ふと、今日、我國に留學してゐる暹羅學生がその全部とまでは行かなくても數多の者が將來暹羅社會の樞要なる地位を占むる者となり日暹親善關係の增進の爲に積極的な働をなすに到るであらうと密かに期待してゐる次第であります。

更に之を支那留學生の例に取りますと慄然たらざるを得ません。過去數十年間に無數の支那留學生が我國に來り學んだ。そして支那に歸り夫々の仕事に從事した。之をイギリスに留學した暹羅學生の例に從へばその多くが親日家となつて日支親善關係に努力するものでなければならないのに結果はその反對となつた觀がある。それにはこれ等留學生の取扱ひ方について我方にも責任があると思はれます。現在暹羅から我國に來てゐる留學生も可成の數に上り、今後も益々增加する傾向があるのであるから、此の際、暹羅關係團體が協力して適當な指導機關を設け、これ等留學生の勉學は勿論、その生活一般にまで親身の世話をすることが必要であらうと思ひます。

六

次に暹羅に於て仕事をする場合に注意しなければならないのは暹羅の現代的進步の中核は歐米文明であると言ふ點です。御承知のやうに暹羅に歐米文明の輸入せられましたのは我國よりその歷史が古いのですが、我國と異ふ點は、我國に於ては急速に外國文明の日本化が成就せられてゐるのに、暹羅では餘り暹羅化に成功してゐない。これには色々と原因がありませうが、とにかく歐米崇拜の氣分が社會一般に漲つてゐる。我國にもそのやうな心醉時代がありましたが、二十年とは續かなかつた。勿論歐米文明には優れたものが澤山ありますが、それが何時も何處に行つても一番に優れてゐるものとは限りません日本に於ては單なる歐米文明より日本化せられた歐米文明の方が價値があり又優れてゐると思ひます。と同時に暹羅には暹羅のものがなければならないのに、どうかすると歐米第一主義の觀念を持つてゐる者が多い。それが永い間の習慣で理智を沒して感情的になつてゐる。卽ち僻見的になつてゐる。つまり何んでもイギリスならよいフランスなら優れてゐると言つた具合です。日本のことを聞き學んで仲々によいと思つても腹の底ではイギリスの方が優れてゐると言ふ感じが拔けないのです。

然し、また暹羅が困難な國際關係を巧に處理して今日までその獨立を保つて來たについては、他の南洋諸國とは異つた暹羅的氣質なり精神がなければならなかつたと思ひます。實際事に觸れてその閃を見ることが出來ます。我々日本人と共通したものがあるやうに感じられます。特に一九三二年の革命以來「暹羅人の暹羅」と言ふ思想が强調され漸次その實を擧げて來たつてゐることは同慶に耐へない次第です。

これは排外思想ではありませんが、一九世紀後半に英佛に割讓することを餘儀なくせられたその失地回復の氣分は軍人社會には隨分强いやうに見受けました。特にフランスに併合せられたラオス地方に於ける兩國關係の推移については、我國として充分に注意してゐる必要があると思ひます。

それで我國の文化事業を致しますについても、どうも最初からぶつつけに日本式を持つて行つてもよく受け入れない傾向があります。例へば日本見學に來た暹羅の學生に美しい日本の景色を見せても餘り感心しない。清楚神崇な神社の白木造りを見るとあれは未だ未完成かと問ひ、極彩式の日光を見せても暹羅にはもつと立派な美しいものがあると言ふことです。これは彼等の經驗から言ふと無理からぬことです。如何にも盤谷にある寺院の極彩色は我々の目を奪ふばかりです。然し三越や白木屋のやうなデパートメント・ストーア、造船所など、日本の近代進步の實際を見せると驚嘆するさうです。こゝに骨があると思ひます。それは先づ日本には歐米に勝るとも劣らない程の歐米文明が發達してゐることを示す。それは實際です。日本に來て初めて地下鐵道に乘る西洋人が澤山あるのですから。これと同じやうに暹羅で活躍する

には、疊束ない暹羅語より英語が達者である方がよく、その上フランス語が出來れば尙更に効果的であると感じました。外國語が出來て歐米のことをよく知つてゐることが誇りである羅暹人に英語もろくに出來ないと言ふやうな感を最初に持たせると、どんなによいものを持つてゐてもその後の工作が仲々に困難になる。つまり皮相的であつても優越感を持つた相手は取り扱ひ難いものです

このやうな具合で日本の音樂を紹介するとしても、初手から能樂や純粹な日本音樂を持つて行くよりも、西洋音樂に基調を置く近代日本音樂を先づ聽かせ、その中にある日本的なものに觸れさせて後に、次第に純粹な日本的なものに入つて行くと言ふやり方です。日本に來る暹羅人の取扱ひにしても同じで最切から京都の柊屋に宿らせるより、神戸ならオリエンタル・ホテルの方が効果的であり、食事にしても帝國ホテルかニューグランドあたりの方がよいと言つた調子でせう。つまり先づ日本の近代文明の水準が極めて高く、歐米にあるものは日本にもあり、それに優つたものさへあることを示して、それから漸次に日本特有の優秀性を知らしめて行くと言ふやり方です。こゝにも亦タクトが必要で、此の優秀な日本文化を味ひ受け入れる事が出來なければ相手が惡いのだ、認識不足だと言ふやうな一本調子のやり方ではなく相手によつて法を說く程の寬大さと廣さとが望ましいのです

そして日本の文明文化には、その特質である適應性の豐富なことから見ても充分に之が可能であると信じます。

七

それから今一つ强く感じますことは、暹羅に於ける文化事業は「集中主義」でやらなければ効果が擧るまいと言ふことです。前にも申し述べました通り暹羅には旣に地盤を持ち勢力を植付けてゐる國々があつて我國はもう立遲れの感がないでもないのです。この立遲れを取り返すためには仲々の覺悟と努力が必要である。特に今次日支事變を通じて見ましても、今後益々南方諸國に對する工作が必要となつて來る。此の間、西はビルマ、印度に接し、北は支那、東は佛領印度に隣し、南は英領海峽殖民地と境する南洋唯一の獨立國暹羅の重要性は言ふまでもありません。對米文化工作も、對防共協定國に對する文化工作も必要であるが、此の際この暹羅に特別な關心を以て集中的努力を拂ふことを等閑に付するやうなことがあると悔を將來に殘すものと思はれます。

また、これを暹羅人の態度から觀察致しますと彼等は何時でも諸外國の言ふこと爲すことを比較對照して考へます。自分の所のものはさて置いて、英國は日本よりとか、日本はフランスよりとか、どうも表面に現はれた形で價値判斷をする習慣があるやうです。日本人的な考へから言ひますと建物や設備などはどうでもいゝ。內容が眞面目で立派であればと考へるのですが、之は暹羅では通用しないやうです。盤谷にあるイギリス公使館に行つて見ますとその建物の堂々たることに先づ威壓を感じます。アメリカが力を入れてゐる醫科大學の附屬病院を參觀すると、これまた設備の完備してゐるのに驚かせられます。こゝに又仕事の骨があるのではないかと思はれます。今度暹羅に參りました目的の一つは、盤谷に日本會館を建てたいと言ふ希望が現地にありますので、その調査を兼ねて居つたのでありますが、若し日本が新たに日本會館を建設するならば、うんと立派な規模の大なるもの、卽ち英・米・佛の施設と比較對照して勝るとも劣らざる程のものが欲しい。それは畢竟するに日本國力の表示であるのであるから、若し生半可なものであるなら建てない方がよいと言ふやうな意見がありましたが、誠に左樣であると存じます。立場を換へて單直に申せば、我國は暹羅に於て常に英・米・佛と競爭的な立場に置かれてゐるのだ。みすみす敗け戰はしたくない。敗けると解つてゐるなら初めない方がよいと言ふのです。然し默つて見てゐるわけには行かないのですから、どうしても各方面が力を協せて、その力を暹羅に集中して見たら隨分面白い結果が生れて來るのではないかと思はれます。此の爲には外務當局を鞭韃して官民一致して力を協せることが必要であると思ひます。

この間差し當り考へられますことは現地で我國文化事業の根本方策を樹立することです。卒直に申しますならば未だ如何なる方策でどんな仕事をして行けばよいかと

言ふ根本方針が確立せられてゐないやうに思はれます。これでは確りとした仕事をすることは思ひも寄らないことです。つまり外交官も軍人も實業家も學者も經驗者もこの大切な事業に參畫して、衆知を集めて根本方策を考究して樹立することです。これに關聯して私の痛感致しましたことは現地に於て日本を代表する實業家の活躍であります。御承知の如く文化事業は政治的色彩を含まない方が望ましい。どうも政府の手でこれを行ふと政治的な宣傳と見られ、その効果が大變に減じられる傾向が一般であります。そこで此度の場合でも、根本の計畫は公使館を中心に樹てゝも、その實行に當つては民間、つまり大商社の主腦者が大に働いて戴きたい。從つてそれ等主腦者の文化事業に對する理解、また積極的な協力を得らるゝならば一層の效果を擧げることが出來ると思ふのです。幸に盤谷に於ては此の點について非常に滿足な結果を得たのですが、今後に於ても國策的見地から物事を見る人物をこれ等大商社の主腦者として得られるか否かは文化事業の進展に多大の關係を有するものと思はれました。ニューヨークとかパリーとかロンドンのやうな都市に於ては自分の會社の利益を忠實に守る人を必要とするでありませうが、少なくとも南洋諸國の樣な我國の勢力が次第に伸張して行かねばならない國々に於ては、一會社の利益のみを追ふと言ふよりも、國策的立場から事業を進める實業家を要求するのではないかと思はれます。これに付いては我國實業界の方々にもこの點に充分の理解を以つて、現地主腦者の選任に當つても、又事業の方針についても國策的な考慮に基いて事を運んで戴きたいと切望致します。

八

とにかく暹羅に於ける事業の面白味は我國の方から積極的に出られると言ふ點です。これが歐米諸國であると先方の希望要求に應じると言ふ程度で我國の方で計畫を建てゝそれを實施すると言ふことは仲々に困難があります。然し今度の經驗に依りますと、文化事業は先方に於ても直接の利害關係がなく、反つて先方に與へることを主眼とするのですから、こちらから費用も人的要素も持つて行けば先方の諒解も早いし、また計畫通りの事業實施も可能である。日本の暹羅に於ける現狀を見ますと、實際的には列國との關係、日支事變などに依り政治的にも經濟的にもその進出には可成りの困難があるやうです。こゝに文化事業の意義があり、此際、最も効果的でありまた必要なこの事業に大に力を注いで見てはと思ふ次第です。

○シヤム旅行記

東京商科大學本科生
太平洋倶樂部員　山田明

筆者は、東京商科大學内太平洋倶樂部員で一行五名と共に去る七月、佛領印度支那、暹羅、馬來半島方面を視察の上、八月下旬歸國された。

はじめに

今年（昭和十三年）暑中休暇を利用し、我々商大生一行五名で佛領印度支那、シヤム、マレー半島方面を約四十日にわたり旅行して參りました。今度シヤム協會の御依頼により、この拙い旅行記を草し皆樣の御參考になれば幸甚です。尙シヤム滯在を主として、他の方面の旅行は簡單にいたしました。

神戸より西貢迄

七月廿日、慘憺たる神戸の水害の跡を後にし我々一行五名は盤谷丸に乘船、一路西貢へと出發。盤谷丸は昨年

出來た船で船内も立派で大いに助かつた。乘客は商大の先輩の草島、田澤の兩氏を初め、暑中休暇でシヤムに歸國する留學生が多く船内は日暹學生會議の樣であつた。早速シヤムの日常の簡單な會話を教へて貰つたが、これがシヤムで大いに役立つたのは嬉しかつた。

七月二十三日、船長主催で我々の爲にテイパーテイをひらいて下さり、シヤムに就き色々と新しい知識を授けて下さつた。一等の船客の方々も共に輪投げ、トランプ等に興ぜられ夜の更けるのも忘れる仕末。海上は西貢に着く迄鏡の如く少しも船に乘つてゐる氣がしなかつた。誠に惠まれた航海であつた。

七月廿七日、大陸が見え出した。明日は西貢に着くと思ふと生れて初めて外國の土地を踏む喜びで胸が一杯だつた。夜は一同送別會を開きビールの乾杯でお互の健康を祝し合つた。

西貢よりアンコール迄

七月廿八日、起きるや否や甲板に急いで出る。赤茶色のメコン河の水をかき分け船は遡る。兩岸には苦力が右往左往してゐる。七時、埠頭に着いた。三井物産の種子田氏が出迎にこられた。稅關も難なくパスして三井物産へ行く。暫く休憩して、市中見物に出かける。街路は全部鋪裝してあり、青々とした街路樹、紺碧の空、赤い屋根と實に見事な調和をなしてゐる。東洋のパリと呼ばれるのも尤だと思つた。路の上を安南人はハダシで平氣で歩いてゐる。夜になるとゴロ〳〵路上で寢るさうだ。植物園、動物園を見物し、西貢から一里程離れたショロンと云ふ支那人街に行く。支那町特有な匂が鼻をつく。ふと見ると壁に「決死抗日」等のスローガンが書いてある。今迄忘れてゐた日支關係を思ひ出し、これは大變な所へ來たなと思つたが別に害を加へる樣子もないので一安心熱帶地方を旅行するのでヘルメットを買ふ。一圓で上等なのが手に入る。西貢に戻りホテルで御馳走になる。南洋風の味でビリツとする辛味がある。こゝは佛領なので葡萄酒の本場物が安く飲める。一本一圓も出せば上等品が飲める。食堂のあちらこちらで葡萄酒を抜く音がポンポンする。果物も珍らしいものばかりで殊にマンゴステンは皆んなの氣に入り、こゝに來るとバナヽ等食べる氣がしなくなる。夜の町を散歩し、夜店をひやかす。煙草は安い。五錢からある。キヤメル、スリーキヤツスル等日本より斷然安い。皆んな一箱求める。何しろこゝは英語が通ぜずフランス語、土語のみで買物も中々樂ではない。チヤナー百貨店をのぞく。フランス製品が多い。現在は日本品は高關稅の爲殆んど輸入困難とのこと。明日は待望のアンコール見物の爲、朝五時出發と云ふので種子田氏の御世話でホテルで一夜を明かした。

七月二十九日、四時起床。人の顏がやつとわかる位の明さだ。豫約しておいた自動車がきてゐる。アンコール迄バスも連絡してゐるがハイヤーを傭ふのが得策だ。親切さうな運轉士さんだ。平坦な道を車は七十哩の速さで走る。兩側は見渡す限り草原で所々に椰子の木の群が見える。途中メコン河を横斷する所に來ると橋がないので自動車もろ共、渡船に乘り入れ渡る。十時頃カンボヂヤの首府プノンペンに着く。お伽噺に出てくる樣な王城を見物。華麗目を欺くばかりの建築だ。見物後大南公司の出張所を尋ね晝飯はオリエンタル・ホテルでとる。十二時半出發、三時コンポントム着。ホテルでサイダーを飲み渴をいやす。一氣にアンコール迄走らす。七時アンコール着。シムラープ・ホテルに宿泊。宿料の交渉はマネージヤーが少々英語が出來るのみで大騷であつたが、結局一人六ピヤスター半と決定した。

七日卅日、アンコール見物。滯暹三十年といふ三木さんの著書の中に、

誰人も一度は見よやアンコール
世界著名の大遺蹟をば

とある。アンコールは九世紀より十三世紀頃迄カンボヂヤの首府のあつた所で、ビルマ人に侵入され今のプノンペンへ移つたといふ話で今迄この遺跡が森の中に埋れてゐたのを、七十年前ほど前にフランス人が發見して、觀光に適するやうに森を切り開いたのであるが今では立派に當時の遺業をしのぶことが出來る。午前中はアンコール・トムを見物した。全部石造建築で、こんな平地に何所

からこの石を運び出したものか不思議だ。一石毎に變る彫刻の妙。たゞ感歎するばかり。アンコール・トムの中には寺や宮殿の遺跡が數多くあるが中でもバイヨンの宮殿址は驚歎の一語につきる。午後よりアンコール・ワットの見物。入場料一ピヤスター拂ふ。これは寺院で今は誰も住んでゐない。廻廊が二つあり、第一廻廊にはラマヤナーの物語の一部戰爭の場面が巧妙に彫刻され當時の東洋文化の進歩を示してゐる。第二の廻廊には寛永年間に日本人森本右近大夫がこの寺に詣でゝ親の冥福を祈る文を柱に書いたのが、そのまゝ殘つてゐる。御家流で今でもハツキリ讀める。寛永當時盛んに日本人が海外雄飛を企てた一端を物語つてゐる。參觀する人は是非見てきていたゞきたい。アンコール見物に一日を費しホテルに五時戻る。アンコール見物は一日かゝるとみて、旅程を定めたが非常に樂に有意義な見物が出來た。シヤム方面を旅行する人にとり、船を西貢で下り、陸路を選び世界の驚異たるアンコールを見物して國境より汽車でバンコクへ行かれるプランも面白いものだ。

アンコールよりバンコク迄

七月卅一日　國境のアランヤで九時半の汽車に乘るため、朝四時シムラープ出發。途中の稅關も大したことなく無事通過。八時前アランヤに着く。シヤムでは外國人は二等か一等に乘ることに殆んどきまつてゐるさうで、我々が三等の切符を買ひに行くと二等の切符を出す仕末中々意が通ぜず弱つた。バンコク迄一人三等で四銖半位三等は板の腰掛けで日本とは大分勝手が違ふ。二等以上は少々立派だ。機關車は日本製、こゝにもメイド・インジヤパンの發展を見る。機關車の燃料は薪で石炭の樣に目に入らないでいゝ。車中は中々賑やか。汽車旅行は三等に限る。シヤムの人情風俗を知る上に大いに役立つた。兩側は廣々とした水田で水牛が盛んに活躍してゐる。間もなく南洋名物のスコールに出會ふ。一天俄にかき曇り、沛然としてやつてきた。話にきいたが話以上に猛烈なものだ。五時頃汽車はシヤムの首府バンコクへ着く。先輩の方々の御宅へ分宿する。

バンコク滯在

八月二日、一日の休養を得て一同元氣回復。各方面へ挨拶廻り。夜はバンコク一のチヤラームクルング劇場へ映畫見物に行く。帝劇より廣く、指定席はアーム・チエアーで立派だ。バンコクにもプログクションがあつてシヤム映畫を製作してゐる。映畫が終ると一同起立して皇帝の御寫眞を映し、シヤム國歌を奏し、これが終つてから見物人はぞろ〳〵出て行く一寸變つた風習だ。多分英國あたりの眞似らしい。

バンコクへ着いて感じたのは支那人の排日が意外に強いことで、我々も先輩方の御注意で夜は支那人街を歩かないことにしたし、バンコク一の料理店「海天樓」にも行けなかつた。自動車の中から支那人街を見物する位なものだ。買物も成る可く印度人やシヤム人の所でした。日支事變以來排日ボイコツトの結果支那側も商賣が少くなり、それにつけ込み印度人の雜貨商がかなりの勢力を得てきたことは注目に價する。

（一）ドンムアン飛行場見物

八月三日、朝早くドンムアン飛行場へ行く。今日は田村陸軍武官がシンガポールへ飛行機で行かれるので御見送した。日本人の方が澤山御見送にこられる。旅客機はダグラス機で、シンガポール迄八時間といふことだ。

（二）寺院見物

ドンムアン飛行場より物產の方の御案内で寺院見物へ

ワツト・サケー。頂上より市中を眺望する。樹木が多いのが深く印象に殘る。

ベンチヤム・ホビツト寺院。大理石で疊み上げたもので石は伊太利より運んださうだ。床は磨いて艶を出してあるので水を打つた樣に光つてゐる。廊下には等身大の唐金の樣々の佛像がならんでゐる。

ワツト・ポー。釋迦の寢像がある。二十四間二尺も長さがあり、足の裏でも三間はある。金箔が最早や大部分剝脫して見る影もない。

ワツト・チエン。メナム河を渡船で渡つた所にある。

バンコクには橋は僅かに一つ。河は渡船で渡る。この寺は一名「曉の寺」と云はれてゐる。奇麗な塔の上に登つて眺めた景色は天下一品。

（三）毒蛇病院見學

八月四日、先輩の方々と共に見學に行く。この病院は狂犬や毒蛇に嚙まれた時治療するワクチンの研究所である。幸に今日は一週に一度蛇から毒をとる日に當るので十時から見せてもらつた。椀を伏せたようになつたものがいくつも〳〵あつて、これが蛇の巣で係の人がそれをあけると、六尺もするコブラがうぢや〳〵と重つてゐる係の人は慣れたもので平氣で蛇をつかまへ、ガラス板を嚙まして毒を取る。だから若し毒蛇に嚙まれたら蛇の種類を覺えておけば大概助かるさうだ。けれども何よりも蛇に嚙まれない方が仕合せだ。バンコクの町の中で蛇等少しも姿を見せない。この毒蛇病院の隣はチュラロンコン病院でシヤムの赤十字病院だ。盤谷丸で一緒になつたパイトンさんが勤めてゐるので面會に行き、病院の中を案内して貰ふ。中々設備も行き屆いてゐる。廊下で會つたシヤムの青年に突然に、日本語で話かけられ面喰ふ。日本に四年も居たそうで流暢な發音だ。意外な所で意外な人に會ふ。歸りに病院の繃葉書を貰つて別れた。午後シヤム人所有のチーク材工場見學。チーク特有の臭氣に相當惱された。チーク材はシヤムの奥地より切り出されメナム河を下りバンコクで製材され輸出されるので、我國でも昭和十二年には三百十萬二千圓も輸入してゐる。更にシヤム產物の米の精米所を見學したいと思つたが、支那人所有になるもので危險だとの話で中止した。こゝにも排日の風潮が浸みこんでゐる。

（四）日本人小學校訪問

八月五日、九時頃バンコクの日本人小學校を訪問した。渡邊校長先生にお會ひして、當地の教育方針等を拜聽した。母國を離れ海外に活躍する邦人にとり子供の教育はかなりの惱らしい。お話によると現在の在校生は一年から六年迄合計二十四名。先生は二人。一時間に一方は讀方、他方は算術といふ具合に八面六臂の活躍ださうだ。シヤムの文部省令と日本の文部省令とを參考にして獨特の教育方針で授業されてゐる。現在では臺灣の中等學校と連絡をとり、この學校の卒業生は無試驗で入學出來る由。將來は是非日本全國の中等學校と連絡をとりたいとのこと。誠に同感。恰度、シヤム語の授業中であつたが皆んな愉快さうに勉强してゐるので心强かつた。日支事變の影響はこれら可憐な小學生の上にも及ぼし、以前は登校の途中支那人に盛に惡戲されたが、最近はその傾向もなくなつた由。何より嬉しいことだ。東京より持參の文房具を贈呈し快男子渡邊校長先生とお別れした。直ちに自動車にて王宮へ。入口には兵隊さんが立つてゐる。見物許可證を示し、一同服裝を正して入る。入口の右方は大藏省がある。王宮の內部は大層見事なもので國王の御休憩所、謁見室を拜觀した。王宮のすぐ傍にエメラルドの佛像で有名なワツト・プラケオがある。周圍の壁には二千年前の叙情詩ラマヤナーの物語が見事に畫かれてある。中央の本堂の扉は螺鈿細工で一對五萬圓もする立派なものだ。中に入ると正面の高い所に二尺五寸のエメラルドの佛像が安置してある。こゝは寫眞撮影禁止で繃葉書を賣つてゐたが餘りに高いのでやめた。この佛像は度々戰爭の原因になつたもので所々轉々としてやつとこゝに落着いたさうだ。

（五）議會見學

八月六日、今日は恰度議會が開かれるので公使館より證明をもらひ見學に行く。議事堂は以前は王宮であつたのが革命後議事堂となつたもので大理石建築で天井には立派な繃が畫かれてある。內部は絨氈が敷きつめられ靴音も氣になる。議會は三時より開會された。傍聽席は我我で占領。議員は百三十名位で日本と同じ方法で始められた。各議員の前にマイクロホンがあつて、演說をするものは自席に起立してやる。言葉がさつぱり解らないので一時間位でき上げる。あとで新聞を讀むと、あれから反對派の議員が皆んなに擔がれ廣場の池の中へ投げ込まれたさうで、早く引き上げ殘念なことをした。

アユチイヤ（日本人町舊跡）見物

八月七日、シヤムと云へばあの熱血漢山田長政を思ひ

出す。長政とシヤムは切つても切られない或つながりがある。幸に今日は快晴で當時長政等日本人が住んでゐた日本人町舊跡を訪問することになつた。一行十五名各自御辨當、水筒を用意して七時にバンコク驛に集合。汽車にて約二時間、アユチイヤに着く。驛前には船頭が頑張りうるさく附纏ふ。今日は日曜とて見物客も多く船賃も高い。物産の王さんが交渉して一同船に乘りメナム河を下ること三十分にして日暹兩國の國旗の翻る日本人町舊跡に着く。一面の草原中央に小さな長政神社がある。これは先頃我が練習艦隊が來た時に建立したものだ。參拜後附近を低徊し、しばし當時の日本人の活躍をしのんだ。あれから日本人がどん〳〵發展してゐたらと思ふと殘念でならなかつた。シヤム人のお茶屋で署名帳に一同署名。頁をくると日本人の名が大多數だ。シヤムを訪れる日本人は必ず一度はこゝを尋ね往時をしのぶのだ。又船で戻る。船を下りると今度はサムロー（三輪車）が澤山まつてゐる。一臺七十五サタンの約束で乘る。間もなくアユチイヤ王城跡につく。そこで持參の御辨當を食べる。王城は燒き拂はれて今日ではその燒跡に大佛が露坐して御座る。歸路博物館、舊象狩場の跡を見物して驛につく。サムローの勘定を拂ふと不足だと云ふ。人の足もとを見てせびる。いま〳〵しい奴だつたが少々安くして一銖二十サタン拂ふ。これには一同大憤慨であつた。四時の汽車でバンコクへ戻る。

再びバンコク滯在

アユチイヤ見物より戻つたのは六時。晩は我々商大の先輩の組織される一ツ橋如水會が公使館で開かれるので服裝を正して出かける。集るもの、村井公使を始め物産の久保、小谷、正金の關、商務官の田澤、棉花栽培に從事される鄕の諸先輩と我々五名で日本からの海外放送を聞き乍ら、日本料理に舌鼓をうつ。日本出發以來、西洋料理や支那料理ばかりであつたので大變な御馳走であつた。先輩の在學當時の思出で話やシヤムの近況に花がさき散會したのは十一時を過ぎてゐた。

八月八日、別に今日は豫定もないのでシヤムの留學生ソンマイ君の所を訪問した。恰度盤谷丸で一緒になつた留學生もやつてきたので、共に大いに語る。皆んな日本語が出來るので英語の心配もなく愉快だつた。革命以來シヤムの青年間には一種の氣質が出來、以前とは異つた意氣組がみられるとのこと。尙バンコクの排日に就てもシヤム人には餘り影響がないと考へてか樂觀してゐた。自分も日本へ留學するシヤム人が早く東洋の大勢に眼を向け共に東洋平和の爲盡力する日の來ることを祈つてやまない。四時、大阪商船のテイ・パーテイーに招かれ席上武田氏より日暹關係に就き色々と御高說を拜聽した。晩は日本商工會議所訪問。排日ボイコツトの對策を議せられてゐる最中で非常に緊張した空氣であつた。總領事を始め正金、物産、商事と重なる邦人商會の代表者が集り種々具體策を講ぜられた。中でも臺灣出身の陳さんは度々抗日テロ團より强迫狀を送られるので自己の悲壯な心情を吐露され、我々も大いに參考になつた。この問題は華僑の特に多い南洋方面に活躍される邦人にとり重大な問題で、これに處する對策を愼重に講じなければならない。

八月九日、十時頃、商大留學生バンチヨン君の母校官立商業學校を訪問。校長先生は多年英國に留學された人で英語は中々うまい。校長先生の案內で校內參觀。タイプライター實習教室では二十人位の生徒が熱心に練習してゐた。タイプライターは英語とシヤム語の二種類そろつてゐる。珠算の教室では支那式の大きなソロバンを用ひて二桁の掛算をやつてゐた。日本のソロバンは高いので使用出來ないとのこと。手先は日本人が一番器用だ。生徒さんの手先は中々思ふ樣に行かぬらしい。運動も校庭が廣くないので、バスケツト、拳闘等で特に柔道を敎へてゐるさうだ。柔道はやつたことがないので他流試合はやめた。校長先生は今晩我々にシヤム料理を御馳走してくださる約束をされ七時に又學校に集り自動車でトンブリーにある校長先生の兄さんプラモンさんの御宅へ行く。玄關で「グツト・イーブニング」（英語で今晩は）とやつたら中から日本語で「どうぞ」といふ聲がして日本の御婦人が出てこられた。一同面喰ひ二の句がつげなか

つた。プラモンさんの奥様でシヤムにきて十五年にもなるとのこと。應接間で奥様の弟君に紹介された。早大を卒業され目下シヤムの農林省へ御勤めされてをられる。奥様を中心にシヤム料理を御馳走になつた。シヤム名物のカレーが出たが、これには降參した。小さなスプーンで一杯口に入れたが暫く口の中がボーツとする。このカレーを除けば大體支那料理に似てゐる。お腹一杯御馳走になる。食後日本の近況を奥様にお話してあげる。奥様もなつかしさうに耳をかたむけられた。餘り夜も遲くなるので十一時頃からお暇した。奥様も門迄送つてこられ一同御健康を祈り乍らお別れした。夜分遲くなつたが明日出發なので先輩の方々へお暇乞をするため久保、小谷兩氏の所へ行く。久保氏丁度熱病にかゝられ寢てをられた。久保氏には我々がバンコク到着以來一方ならぬ御世話になつた。一日も早く御全快なさるよう。

バンコクよりピナン迄

八月十日、愈々今日はバンコクを出發する日だ。午前中御世話になつた方々の所へ御禮廻りに行く。ピナン行は一週二回なので我々のシヤム滯在も長くなつたわけ。汽車は大變な混雜で車中はごつたがへしだ。久保、關、田澤、小谷の諸先輩、北莊司氏、シヤム留學生のソンマイ君、印度人のシン君、高月氏等の盛大なる御見送りを受け、四時出發。ハンケチの見えなくなる迄窓から首を出す。本當に皆様の御世話になりました。御蔭様で樂しいシヤム旅行が出來、心から喜んで居ります。雜然とした車中で席を探し、やつと五人別々に坐る。連日の疲勞で一同早やコクリ〳〵。夜になると三等車は電燈がつくが薄暗く前の人の顏がやつとわかる位。若い青年をつかまへ世間話をする。煙草をくれたりして中々如才がない。東京を出る時、或る先輩から成可政治問題なんか車中で喋らないようにと御注意があつたので世間話で旅のウサをはらす。いつしか深い眠に入る。

八月十一日、汽車は水田の中を走つてゐる。英語の出來る女學生が傍に乘つてゐたので大喜び皆んなで話す先方少々英語は下手。話の最中一人の青年がつか〳〵とやつてきて、話の仲間に入る。よくきいてみると商大の留學生バンチョン君の兄さんで一同この奇遇に驚いた。その人達はシンゴラで下りた。そろ〳〵お腹がすいてきたので代る〳〵食堂車に行き晝飯をとることにする。食堂は一等二等三等と車が別で、我々は切符は三等でも食堂は一等で食べようと心臓の強い所をみせ乘り込んだ。料理は西洋料理で、ボーイも英語を話す。最後に勘定となると一人前二銖半もとられ目を白黑した。何んだか、馬鹿にこの料理がおいしかつた様な氣がした。國境の税關も我々を學生と知つてか無事通過。愈々シヤムとお別れだ。

堅い腰掛の上で廿六時間も搖られ午後六時プライに着く。電報で知らせてあつたのでピナンの旅館から出迎がきてくれた。連絡船でピナンへ渡り朝日旅館へ宿泊。

八月十二日、朝から雨。午前中日本人小學校訪問。午後自動車でピナン見物。植物園で野生の猿が澤山ゐるのに驚いた。

ピナンよりシンガポール迄

八月十三日、九時の汽車でプライ出發。英領に入ると汽車が石炭を燃すので窓から石炭の粉が入り窓を開けておくわけにもゆかない。一同暑さにうだり乍ら疲れたので一眠り、六時コーラ・ランポー着。勅使河原さんの御出迎を受け自動車で市中見物後、氏の御宅で夕食を御馳走になる。こゝでも排日は相當なものださうだ。午後十時コーラ・ランポー發。

八月十四日、朝六時最後の目的地シンガポールへ着く。正田、須賀川、大森の三先輩の御出迎を受けて、驛にて朝食後、一行中三名は千田氏他は須賀川氏の所へ御厄介になる。

八月十六日、日本郵船の招待で支那料理を御馳走になる。こゝはバンコクより表面は靜かで支那料理屋でも安心して入れる。

八月十七日、千田氏の御配慮で石原産業のスリメダンの鐵鑛山及びバトバアのボーキサイト鑛山見學。規模の

壯大なのに一驚。

八月十八日、熱帶產業のゴム園見學。難波先輩の御活躍振を拜見。ゴムの樹よりゴム液をとりゴムにして市場に出す迄の工程を見學。再びシンガポールへ戻り一橋如水會の歡迎會に出席のため、日本人ゴルフ倶樂部へ行く集る先輩二十四名。スキ燒をつゝき乍ら商大の近況等に話がはずむ。千田氏の快談に時の移るを忘れ散會したのは十二時。

八月十九日、朝各方面に御禮廻り。千田氏始め如水會の方々には一方ならぬ御世話樣になつた。午後八時懐しのシンガポールへ別を告げハワイ丸の人となつた。

結び

我々は短時日の間に以上のやうな盛澤山な有意義な旅行をやつて參りましたが南洋方面を旅行してみて、排日の空氣が意外に強いのに驚きましたが、旅行者には何等の危險もありません。然し若しこのまゝの排日ボイコットが續きますなら南洋方面の邦人事業も相當打擊を蒙るでありませう。日支兩國が心から手を握り東洋平和の日の來ることを祈つてやみません。今度の旅行中到る所で華僑の勢力特に經濟的勢力が如何に強いものかを知り、日本人もどし〳〵海外雄飛をやり日本勢力の發展を計らねばなりません。海外雄飛こそ我々青年に與へられた一つの使命と感じました。尙詳しい旅行記や感想は、我々太平洋クラブの機關誌「太平洋」に發表の筈でありますから御參照下されば幸です。若しシヤム方面を旅行される方がありましたら何んなりと御尋ね下さい。出來る限り御返事致します。（をはり）

○暹羅の姿を見て

專修大學生
南洋事情研究會員　白鳥五十男

筆者は專修大學內南洋事情研究會員で、八月敎授一名學生四人の一行と共に暹羅班を組織して暹羅視察をなし、九月歸國された。

佛領印度のメコン河よりも南洋色に富んだメナムの濁流を遡り、船が盤谷に近づくにつれて到頭來たなと思つた。情熱が一時に爆發するやうな心の躍動を壓へて上陸を待つた。何んとなれば南洋で唯一の獨立國たる暹羅の姿、盤谷の街を一眼でも見ることが旣に自分達にとりて暹羅の持つ最も大きい魅力であつたから!!

船が止まると今朝河口より乘り込んで居る腰に丸い棒を下げた妙な恰好の水上署員が一層多勢乘り込んで來た上陸に先きだつて稅關吏が自分達の荷物をどんな物までも引出して皆點檢した。說明しても仲々承知しなくて時間がかゝり、早く上陸が出來ないのには非常に不愉快でならなかつた。然し財政上の財源に乏しく、輸入關稅が國庫の最も重要な收入の一つである暹羅にとりては、止むを得ないことであり、むしろ斯かる國情には同情せざるを得ないと思つた。

宿所もどことの當もなく來たが、船が止まると早くも日本人會の方が迎へに來て下さり色々と御迷惑をかけたので、心配なく落付くことが出來て非常に嬉しかつた。船が止まると急に暑くなつた。丁度十二時頃なので陽の盛りだ。想像以上に暑い、やはり熱帶は暑いと思つた。こんな暑いところで活動出來るかしらと一寸不安になつた。憧れの暹羅もこんな暑くては駄目だと考へたが、後

で永く滞在する日本人に聞いたら慣れると然程感じないと云ふことで多少安心した。長い間船中の食事に厭きて居たので、日本人ホテルの芝生の上で青いバナヽの下がつてゐるのを御馳走に、ゆつくり夕飯を濟ましたが實に氣持がよく忘れられない。

船を下りて直ちに自動車でホテルに向ふ。途中、盤谷に一歩入つた瞬間街が想像外に雜然としてゐるのに驚いた東洋のパリーと稱せられるサイゴンやハイホンを見て來た眼で見るからであるかも知れない。乍然何んと云ふても獨立國としてのプライドを持つ國民だけに、上陸して一寸觸れた(瞬間的に受けた)感じでさへ、隣りの佛印のハイホンやサイゴンで見せられた樣な、白人の奴隷として自己民族を宿命的に考へてゐる自主自立觀念を持たぬ人間の印象とは全然異つた、やはり國家意識を有する暹羅の姿が一目で識れる。女子は頭髪や服裝に依るものか然程ではないが、男子は非常に日本人に似た感じの好い印象を與へてくれ大變親しさを覺へた。こちらで親日的であると親しみを以つて見る所以であるかも知れない。

盤谷で便利な乘り物は三輪車だ。二十錢も出すと隨分遠くまで連れて行つてくれる。坦々たる道路を夕方などスピードで走るのは實に氣持のよいものである。これに引かへて自動車の法外に高いのに驚いた。

暹羅といふ國は私が申すまでもなく地理的に英國と佛國の二大勢力國家の緩衝地帶として、危く其の獨立の生命を維持して來た。從來の暹羅は王族專制政體であつたが、再建アジアの警鐘は遂に暹羅に於ても民族的覺醒となつて現はれた。文化の發達に伴つて民族的國家意識が愈々最高調に達し、ピヤ・パホン大佐を中心とする憂國の士の蹶起となり、遂に昭和七年革命により立憲政體を樹立し、茲に王族專制政治は崩壞したのである。

現政府はピヤ・パホン大佐を總理として、文化に外交に産業に經濟にあらゆる國策に就いて近代的國家の體制へと邁進してゐるやうである。而してこの獨立國家意識に燃え、懸命になつてゐる現政府の前途にある難關は財政の窮乏であらう。近代的産業發展に於ては尙ほ幼稚なもので、實質的には自國の銀行さへ持つてゐない有樣である。繁華な商店街に入ると全く支那人街だ。暹羅人の經營出來る商賣は床屋位なものである。

商業經濟力は全く支那人の獨占だ。便利な三輪車でさへ——支那人が曳くことを禁止してゐるそうであるが、——何時の間にか其の車の所有權は華僑の手に賣却されて暹羅人は其の車を借りて仕事をするやうになつてゐる農民に高利な金融で苦しめてゐるのも華僑、又主産物たる米の精米所も殆んど彼等の經營であり、其の他錫工業木材工業に從事する勞働者も皆支那人であり、年々七千萬圓以上、是等の華僑によりて支那本國へ送金されるがこれは將に暹羅財政の重大問題である。次に外國顧問中過半數は英人で、財政的方面は殆んど彼等の勢力範圍である。銖は英國の磅に追從するやうになされてゐるし、チークの伐採と錫工業は全部白人の手により營まれ、是等事業への投資による年々の利潤は莫大なものであり、全く彼等は徹底的な暹羅の搾取者である。

斯くの如く全く經濟力は支那人及び白人の占むるところとなり、この二つは革新政治を行はんとする暹羅現政府の現在將來に於ける最も大きい惱みではあるまいか。殊に全人口の三分の一をも占むる支那人があることは更に大きな問題だらう。從つて國家財政の財源となる産業開發が急務であつても、資本と勞力の問題となり、利益の歸するところは外人である。則ち自分の手で開發出來ぬ狀態である。こゝにおいて政府は對策として機會ある毎に國家權力によりこれ等の勢力を壓へ、暹羅國家の手に戻さんと努力してゐるが、何れにせよ國民一般の教育程度未だ高からず、殊に經濟的方面となると商業學校を開校しても生徒が集まらなくて閉校の止むなきに至ると云ふ始末である。この方面に努力せんとする少青年の少ないのは立上らんとする暹羅國現在の最も悲しむべき事であり、革新政府の前途多難が充分想像出來る。

自分達は旅行記などで暹羅農村に於ける支那人の高利金融による苦しみを知つて其の桎梏より大衆を救ひ、日本商品の購買力を持つやうにする理想的な農村政策を簡單に考へてゐたが、實際に來て見て現實的に考へると非常に困難であることを悟つたのである。今事變下に於け

る排日華僑の動向は支那國民政府からの惡質な抗日分子の潜入、或は新聞などに依る三民主義抗日思想の注入を以つて軍資金の調達を續けてゐる。殊に華僑新聞など日本軍と支那軍とを全く反對の位置に置きかへて麗々しく書き立てゝゐるのも、吾々が讀めば苦笑を禁じ得ないが、あの盤谷中央ステーションで堂々賣つてゐるんだからやりきれない。かやうな宣傳で排日思想が高調し白人等の策動も加はり惡性な排日貨運動と化したのである。この排日取締りに就ては暹羅政府は懸命に防止に努めてゐるが、殊にテロの犠牲者が直接日本人でないので被害者の方で後を恐れて泣寢入りをする爲に、仲々犯人の檢擧が困難のやうである。然し乍らこの狀態が永續するときには、日本品に依存し背後に强力な生産力の援助を持たぬ彼等商人自身を自滅に導くものである。現に密かに日本商に仕入れに來る狀態である。要するに排日華僑の取締りの早道は蔣政權に徹底的な打擊を加へて彼等の故郷たる南支一帶に親日的政權の確立するより以外にないであらう。

現在南方の各植民地が日本にとりて何れも其の門戸を閉ざしてゐる中に、一人暹羅のみ吾國と通商友好條約を締結した。入國の制限もなく他國が南方で日本人の進出を頑迷に阻害してゐる現在、日本人が堂々と入國出來、産業に從事出來るのは暹羅一國だけである。現によく聞く暹羅の親日的に見える行爲は日本人の考へる程單純な日本依存主義より來たものでなく、むしろ中立的な日和見主義よりであるとなすことも確かに肯ける事實であるやうであるが、國際的にも又國家の形成要素から見ても實にデリケートな關係にある暹羅としてはむしろ當然すぎる程の現象ではなからうか。こんな問題は少しも悲しむべき事でないと思ふ。日本だつて暹羅が若し日本にもつと米を輸入してくれと註文してきたら直ぐに快よい回答は出來ない筈だ。

現在暹羅の有力階級の多くは歐米にて教育されて來た人達であるが、それ等の人々が歐米依存主義を主張するのは當然である。日本はどれだけ今迄に暹羅の要求に應じてきたか考へる必要があると思ふ。

街を歩いて見て最も力强く感じるのは軍隊の行進だ、あの熱帶の燒付くやうな炎天下を日本式にカーキー色の軍服で汗グッショリになつて、然かも意氣軒昂とした眞劍な態度の逞しい軍隊だ。これだけを見ても新興途上の暹羅の姿が窺はれる。學校などでも青年の身心鍛錬といふことから日本の柔道熱が盛んであるやうである。

こゝにおいて吾々は東亞の安定勢力として國勢の伸張を計る意味に於て、東亞の平和を前提とした亞細亞に於ける日本の使命をよく認識して、理解と友誼によりて、日本の亞細亞政策の遂行の上に重大なる役割を演じてゐる暹羅に對して、日暹兩國の親善に努め相互扶助的な精神で吾が國の資本で産業開發を助け、力强い亞細亞經濟ブロックへの建設に邁進せねばならないと思ふ。故に日暹關係の促進は吾が南進國策遂行上からしても最も緊急な問題である。吾々は常に理解を持つた兩國民の接觸の機會を作ることが最も必要であり、殊に吾々學生は國家百年の計として遠大なる理想で互に次の時代を背負ふ兩國青年の間に文化的方面より親善を計り、同情と理解と友誼によりて東亞に於ける日本の使命を全うすべく努力すべきであると信ずる次第である。（終り）

○暹羅留學生を覗く

黑野政市

暹羅留學生と毎日一所に生活して居ると、彼等の種々の特質が目につく。この學生達は、既に暹羅の指導階級となるだけの教養を持つて居り、日本へ好んで留學したのであるから、暹羅一般大衆や他の國々へ行つた學生達と違つて居る點もあるであらうが、暹羅人獨特の性質、即ち暹羅國民性を多分に持つて居る筈である。して見れ

ば、今私が書く事が、留日暹羅學生の特質ばかりでなく暹羅國民性に觸れて居るかも知れない。若しさうであつたならば、彼等に適應する策を立てる土臺となるかも知れない。また、さうでなかつたならば、とんだ見方をした日本語教師もあるものかな、暹羅人は斯の如くなりと發表して下さる篤志な方も現はれるかも知れない。どの道、百人に餘る暹羅學生が留日して居る今日、確固たる策が立てられなければいけない。暹羅の爲に、日本の爲に。そして明けゆく東亞の爲に。こんな事を考へて來た私が彼等を覗いた記錄がこの文である。

暹羅學生の日本留學に就いて。

暹羅學生が斯くも多數日本へ留學する樣になつた原因を考へて見ると三つある樣である。第一は暹羅人も東亞の擡頭的氣分に促され、政府と云はず民間と云はず、新興暹羅を造り上げんがために教育の振興を圖り、世界の各國へ留學生を送る樣になつた事であらう。

第二には果てしなく伸び行く日本の國力、殊に經濟的發展の亙歩であらう。

第三には日本への留學が安價な爲の樣に思はれる。

この第三の理由で來て居る學生が隨分多い樣である。英米へ留學するには毎月數百圓を必要とするが、日本へ來て居る私費學生の留學費は百圓内外であるから。然し茲に一つ困つた問題は、この種の學生の中には暹羅の學校を中途退學した者が居る事である。暹羅の富裕階級の中には第三の理由のために、體面上子弟を日本へ留學させる家がある樣である。日本で非難を受けるのは、大抵この學生達の樣に思はれる。本國で勉强しない者が、日本へ來たからとて急に心機一轉する事は少い。始めの中は日本語も習つて見るが、斯う言ふ生徒達が極めるには日本語はあまりに困難すぎるから、大抵教師に種々の註文をつけ出す。そして、教師も生徒も滿足出來なくなつて、甲の教師から乙へ、また丙へと轉々と移つて行く。遂には語學勉强等よりずつと面白い所まで流れて行く。月謝は高いと言ふが、銀座へ遊びに行く爲に買つた定期券の事は何とも言はない暹羅學生も居た。この生徒は、月の二十五日になつて、急に日本語の勉强を止めると言ひ出したばかりでなく、最後の月ですから割引して下さいと半月分だけ拂つたさうである。日本流に考へたら、隨分馬鹿にした話であるが、この樣な生徒も笑つて送り將來の事も考へてやらない樣では日本語教師は勤まらない。怒つたとて一月分貰ふ事は出來ないのであるから、親切にしてやるに限る。この種の生徒が、いくら忘恩的であつても、萬人に一人私達の氣持を酌んで呉れるのがあるかも知れない。困り者の生徒の非難を大分續けて來たが、幸な事には、斯かる生徒は、今は非常に少く、公使館の努力で眞面目に研究して居る者さへあるのは、この生徒の爲ばかりでなく、日暹兩國の爲に慶賀すべきであると考へて居る。何故ならば、この種の生徒が歸國後暹羅人に與へる影響は相當に大きいと思ふからである。暹羅學生と生活して見ると、彼等全部の監督指導に當つて居る公使館の學生監督官の苦勞がどれだけ大きいかを知る事が出來る。

暹羅學生は、なぜ日本へ來るかと、極端に惡い生徒の非難を書いたから、次には、暹羅留學生はどう變つて來たか、卽ち學生監督官制度の整備した今日と其の制度が出來たばかりの一昨年の春とは、どれ程變化して居るかを述べる。一昨年あたりは、私が今春來、協會報、國語運動會報へ屢々書いた樣に、留學生が急速に增加した爲に、政府留學生でさへも、日本へ到着しても、日本語教授をどの位受くべきか、日本語は習得しなければならないがどうゆふ風に、どこで習得するのが一番よいかに就いて公使館としての確かな方針はなかつた樣である。隨つて政府留學生達は、當時出來た國際學友會館で十二人一齊に習ひ出したのであるが、「ハトポツポ」を喜んで歌ひ踊る一年生の坊ちやんや孃ちやん方と同じ事を教へられたのであるから、一月も經たない中に、多分熱心な生徒から先に、公使館へ日參し始めたのである。そして、時の公使さんが知人を呼ばれて、日本語教師を探す樣に賴まれたのであるが、動員された教師は、日本語の流暢さは萬點であるは、言語學、音聲教授法の點には考慮が拂はれなかつたとの事である。例へば、A教授は教讀本卷一の一頁を生徒に理解させるに二三日を要し、意味の推測は

何時も教師と生徒の多數決、Bは卷一の終りを一日に十頁も讀んで、達者な英語で說明も譯もした程の教授と學習の關係を念頭に置かない學者、Cは何々と、生徒達は來朝早々堪へられない試練を受けたのである。そして、私費留學生もこの例に漏れなかつたのである。それであるから、歸國出來ない政府學生は別として、日本語困難を理由に他國へ留學する樣になつた生徒も、この中から輩出したのである。ある歸國學生が日本留學不利を公表したのもこの頃であつた。所が本年度になると一變してしまつた。第一に氣付く事は留學生の態度が眞劍である事である。前に言つた樣な移動學生まで、同じ所に、同じ仕事を續けて居る事其物が以前と變つて居る事を證明して居る。そして、この種の生徒は新らしく來ない。最近來る生徒は日本留學の何たるかをよく知つて居る。勿論日本語の困難は覺悟の上である。新らしい生徒に會つて見ると、日本語をどの位習つたらよいか、日本語はどの位難しいかの知識ばかりでなく、こゝに特に强調しなければならないのは、彼等が一樣に、日本語の本が讀める樣にならなければ致方がない、即ち日本の文化を習得するには日本語に依らないセカンドハンドの方法から、日本語に依るファーストハンドの方法へと移つて來た事である。斯かる短期間に、どうしてこの雰圍氣が生れたのであらうか私にもよく分らないが、主として學生監督官に負ふべきものと考へて居る。それであるから、現在並に將來留學する生徒は、政府學生も私費生も、監督官の監督を受け、私費生は、本人の志望と監督官の指示に依り各所に配置されて、來朝早々、日本語教師を探す必要などはなく、就學する樣になつて居る樣である。遲羅學生の中には、この制度をあまりに形式的として非難する者もあるが、これは適宜の處置であり、この制度の下に日本語が科學的に教授される日が遠くはないと思つて居る現在一部から非難を受けて居る監督官も、數年後彼等の學業が完成して歸遲する曉には、どれだけの感謝で酬ひられるであらうか。氣心の知れない外國人の世話がどれだけ苦勞か斯う言ふ人達と生活する者のみが知るであらう。

以上の樣に遲羅留學生監督制度は出來上つて、現在有効に實施されて居るのであるが、彼等に對する日本語教授法が充分に研究されて居ない事は殘念である。現在數ケ所で教授されて居るが、困難な日本語を教へる教師の連絡は全然ない樣である。甲の教師が氣付いて居る點を乙の教師は氣付かないかもなれない。亦、これと反對の事も多々ある。この現狀は、私が爰に述べるまでもなく教授法の研究發達を阻害してゐる現狀に於て、急速にこの機關をつくる事は困難としても、滿洲國留學生には滿洲國會館と日本語教授所がある樣に、遲羅學生本位の日本語教授機關が一日も早く出來る事を私は望んで居る。斯くすれば、遲羅學生に最適の教授法も研究されて、遲羅學生は、現在一年で習得出來る範圍の日本語を半年で習へるかも知れない。科學的教授は、それ程までに必要ではないかと思つて居る。素人の醫師に身體を託する愚はしなくとも、素人の日本語教師に日本語學習を託して居る遲羅學生は隨分多いのではないか。醫師に醫學の知識と臨床の經驗が必須である樣に、日本語教師には、日本語の知識に加へるに言語學、教育學、教授經驗が必要ではあるまいか。そして日本語教師の醫師會も。日本語教師は日本語教授の問題に觸れると、必ず長くなる。他の問題には大して知識はないのであるから。

今まで、監督官制度の整備と、其に附隨した留學生の變化、一部學生の不滿等を述べたから、これから遲羅學生が日本留學の不滿を、もう一つ擧げる。遲羅學生が見た現在の日本は如何なる點が發達して居るかは、次の如き學生の專攻別が示して居る樣に思はれる。現在百名に餘る留學生（陸海軍人を除く）の三分の一は經濟學生である。政府學生も、先頃歸國した警察學生三名を除いた十二名の三分の二の八名が經濟關係の學生である。之に次ぐのは醫學であらう。女子學生は齒科醫生が一番多い。次いで商工業、水產等の生徒の樣に思はれるが、藝術關係では、美術學校で日本畫を專攻して居る政府學生一名だけしか私は知らない。農業は殆んどない樣である。以上の學生別に依つて知れる通り、遲羅學生の見た現在の日本は、經濟制度が巨大な發達をして居り、商工業、醫

學等が之に次いで居る樣である。(軍事關係には觸れないで)斯く多數の經濟學生が留學して居るのは、暹羅が從來商賣をあまりに閑却し過ぎて居たのを自覺した爲と、もう一つは暹羅の高等商業では支那語を敎へて居る爲に學生に漢字の素養があり、日本留學が便宜の爲かも知れない。最も、暹羅の學校であつて、在學中は英語又は佛語の使用だけを許されて居り、暹羅語の使用を禁じられて居るアサツプションコレツヂの卒業生も多いのであるから、結局日本の經濟組織の發達が主原因かも知れない。何れにしても、留日暹羅學生が一番懸念して居る事は、學校を卒業して官廳なり會社なり、銀行なりで實習並に調査をする場合に、發達して居る日本の諸制度を充分に習得出來るかと言ふ事である。どの學生も、日本の制度は發達して居るが、日本では之を敎へてくれないと言つて居る。それであるから過去に日本へ留學した學生は大抵不滿を持つて歸國したさうである。さうして、他國では日本よりもよく敎へてくれる。語を換へて言へば、日本には秘密が非常に多いと言ふ事である。然し、私の友人で、これも最近まで某官廳で調査して居た留學生は、最初は一般學生の樣に非常に、懸念して居たが、一二の誰が考へても外國人には敎へられない點だけを除いて、全部調査する事が出來たと非常に喜んで歸國した。私はどこの國にも、外國人どころか其の國人にでも發表する事の出來ない點がある。殊に現在の日本は特別であると言つて居るが、暹羅學生は、この點では日本が一番である。故に日本へ留學した者は、他國へ行つた者より、遙に少ない知識を得て歸國しなければならないと言つて居る。暹羅學生の日本留學に就いて種々の點を述べたから次には暹羅學生は親日である事を私が覗いた實例に依つて書く。

暹羅學生は親日である。

暹羅留學生が一般的に日本留學に就いて不滿を持つて居る事を書いたが、彼等はこれがあるからとて、決して日本を恨んで居るのではない。もつと知りたいのである。そして立派な自分を、立派な暹羅を造り上げたいのである。たとへ彼等が日本文化の發達を精神的に見る事が困難で物的に見る樣であるとも、暹羅學生は日本文化の吸收に依つて、東亞第二の强國を建設する事が出來ると思つて居る。暹羅學生は親日である。私は斯う言つて差支ないと確信して居る。彼等には、日本を研究すればする程其の偉大な姿が分つて來る樣である。留日學生中にも、歐米の文化に心醉して日本を侮蔑の目で眺める者もあるかも知れない。然し、二三のこの種の生徒があるからとて、暹羅學生が親日でないとは決して言へない。私が彼等との生活の間に覗いた彼等の姿を次に列擧して見る。

Aは政府學生中の勉强家である。多年公立學校にあつて青年敎育に從事した私も、Aの努力家には驚いて居る。日本人學生としての點をつけたら、文句なしに九點をやる優秀生徒である。私はこの生徒と一諸に居る機會が多いので、自然種々の特質が目につく。私は時々この生徒の讀物に注意して見た。彼が讀む日本及び海外の書籍、新聞雜誌の中で、日本に有利な記事、例へば日本の伸張日本經濟の堅實性、日本人の優越性等を書いた部分の下には何時も太い赤線が引いてあり、二重の丸までつけてあるのさへ見た。この生徒が日本を辯護した英文の刊行物、例へば「Japan Speaks」等の如きものを、何回か故國の父兄のみならず友人にまで送つたのを知つて居る。

B生徒の言動も私の注意を引いた。この生徒は英米新聞雜誌等に現はれた國際聯盟の無力化、日本の强大な姿等に就いて讀む毎に、私に知らせて呉れたが、其時には既に赤線と赤丸がついて居た。この生徒は大の支那人嫌ひで、日々の新聞の日本軍進出を樂しんで居た。ニュース映畫に時々誘はれるには閉口したが、日本音樂のレコードを買集めて居たので、私はいつも樂しんで聽いて居たら、これも近頃荷造りされて仕舞つた。

c、dは最近歸つた生徒である。日本語の本がまだ讀めないので、歸國後はどうする考かと數回訪ねて見たが本を入れた箱が特別大きな荷物となつて居た。歸國に際して買ひ足したとの事である。そればかりではなく、アドバータイザー、ヂヤパンタイムスの週刊、ピクチヤ朝日、寫眞週報等が豫約されて居た。專門の雜誌もこの生徒達に依つて豫約された事は、私が見なくても間違はあ

るまい。この學生達はバンコックのモダン學生で佛人經營のアサンプション出身であるので、他の留學生より歐化の度合が甚だしい樣であつたから、特に私の好奇心？を唆つたのであるが、斯うした點から察しても、かなり日本化して居るのではあるまいか。土產に買つて歸つた譯ではあるまいから。この樣な例は枚擧に遑がない。事變の話でもすると不氣嫌な顏をする支那系の暹羅學生も居るが、暹羅學生全體としては親日ではないかと思ふ。そして其は滯日中だけでなく、歸國後もさうであると思ふ。

大分長文になつたから、暹羅留學生の事變觀、歐米崇拜、日本人觀、支那人觀、其他數項目を機會を見て書きたいと思つて居る。

雜報欄

○秩父總裁宮殿下の廣東攻略御參戰

秩父總裁宮殿下に於かせられては、今事變に際し畏くも大本營陸軍參謀の御資格にて親しくバイヤス灣敵前上陸作戰に御參戰、軍艦○○に御搭乘日夜最前線に御精勵、全軍將兵の崇敬を集めさせられつゝあつたが、十月二十六日午後四時五十分羽田東京飛行場着の日本空輸ロックヒード機にて、御恙なく帝都へ晴れの御歸還を遊ばされた。

戰史に比類を見ずと云はれる廣東作戰に、未曾有の成功を收めた南支派遣軍に、畏くも金枝玉葉の御身を以て大本營幕僚として御從軍、炎熱百度を越ゆる戰野に赫々たる武勳を樹てさせ給うた御事は、洵に畏き極みであつて、かく御英邁に渉らせらるゝ宮殿下を總裁と仰ぎ奉る本協會の光榮これに過ぐるものなき次第である。

○アテイツト殿下より秩父總裁宮殿下へ再度の御贈品

曩に在盤谷日暹協會總裁アテイツト殿下より秩父總裁宮殿下へ御贈品あり、之れに對し總裁宮同妃兩殿下よりは昨年歸國のミトラカム・ラクサ前公使に托し、御答禮の品々を御贈りあらせられたる所、先般アテイツト殿下より再び駐日暹羅公使館經由、宮家へ美麗なる暹羅國產ニエロ銀製シガーケースの御贈品が屆けられたる由。

○暹羅農相の辭任

暹羅國農林大臣ピヤ・アガネー氏は病氣のため去る九月卅日辭表を提出したので十月二日パホン首相は之を受理したが後任

は當分の間國防相の兼攝と決定した。

○人民代表議會解散

人民代表會は去る九月十日の議事豫算案審議に關する議事規則の改正案に關して政府と第一種議員團（民選）との間に意見の相違を來たし、政府の意に反して同案が採擇の結果を見るに至つた爲、政府は直ちに辭意を決して攝政會議に辭表提出の擧に出でた。然し攝政會議は世界情勢緊張の折柄、並に國王の御歸國を前にして國政の一日も忽にすべからざるを理由として、之を翻意せしめ、同夜九時遂に議會解散の詔勅が發せられ、同時に政府は右の事情に關してラヂオを通じて放送を行ひ、翌十一日更に詳細なる聲明書を發し、解散に至る顚末に關して證明を行ふと共に立憲國に於て政府の總辭職乃至議會の解散は何等特異の事件に非ざる旨を力說、一般民衆の樂居安業を切望するところあつた。

因みに、右解散は議會の半數を占むる民選議員のみに關するものであり、選擧は九十日以內に行はるゝことゝなつてゐる。

○政黨法案を起草

暹羅國政府は同國領海內沿岸貿易に關する左の如き船舶法案を近く議會に提出することになつた。

一、暹羅の諸船舶會社本店は暹羅國籍たること

二、有限責任會社の場合は資本金の六割五分を暹羅人が所有すべきこと

三、暹羅に船籍を有する船舶乘務員の七割五分を暹羅人たらしめること

右は暹羅領海沿岸貿易に從事する船客、又は貨物輸送の船舶及び領海內各港間を往復する曳船全部に適用され、暹羅船舶のみが同國沿岸貿易の實權を獲得するものである。

○暹羅國立銀行設立問題再燃

暹羅國立銀行設立は從來屢々論議せられ來つたところであるが、過般再び元文部大臣にして現議員たるクーン・スコンダ氏に依つて熱心に取上げらるゝに至つた。

右國立銀行設立に關する權限を政府に附與せんとする案は既に八月二十六日首相の下に提出されあり、最近の閣議に於て審議さるゝ運びとなつてゐる。同案の議會上程の期日は未定である。

右に關し大藏當局は次の如く語つてゐる。「同樣な案が數年前考慮されたことがあるが、專門家の審議の結果否決の運命を見た。今回の提案も閣議並に專門家會議に依つて運命が決せらるるであらう。」

尙、政府某高官は右案の成立可能性は目下の情勢に於ては五〇%であると語つた。

○暹羅政府の在暹華僑彈壓

暹羅國政府は、學校で敎へ子に反日宣傳を行つてゐた廉で、先頃支那人敎師百餘名を學校から追放したが、更に不良支那人の取締を勵行し、九月十一日盤谷警察署は一千名の華僑を逮捕同十三日迄の檢擧總數五千名に達し在暹一般華僑に非常な衝動を與へた。今次盤谷警察總動員で搜索を敢行したのは六區に亘り、阿片窟等が隅々まで搜索されたが被檢擧者の中には婦人も數名あり悉く不良華僑である。警察では直に取調を開始したが極力、無職及びルンペン華僑の一掃を期して居る。更に同月十七日には盤谷に於ける一流支那字紙華僑日報に對し一ヶ月の期限付を以て閉鎖命令を發したとのことである。

○築港特別委員會の設置

暹羅國經濟省は南部地方に於ける築港計畫遂行の爲め最近築港建造特別委員を設置し、委員長に經濟省次官海軍少將ピヤ・スラユット氏、同委員に鐵道局長陸軍大佐ルアン・スリ、港務局長海軍中佐プラ・パーラサムツト、鐵道局技師ルアン・ユッタセーウイの諸氏並に商務局代表者一名を任命した。委員は九月中カンタン其他築港候補地へ實地視察に赴いた。カンタンはプケツト及び隣接地の物資集散地として有名な處をある。

委員一同はバントンースラトラタニ驛間の國道候補地をも實地調査を行ふた由。

○暹羅海軍巡洋艦建造說

暹羅海軍の再軍備第一次五ヶ年計畫は今や將に完成せんとしつゝあるが、消息通の報を綜合するに、政府は明年度に於て新建艦計畫を發表するものと觀測される。右案は主として巡洋艦の建造に重點を置くものと傳へられるが、一説には既に伊太利トリエスト造船所との間に四千五百噸艦二隻の建造註文に關する商議が開始されたとのことである。尚ほ建造費は何れも八百萬銖三ヶ年の日數を要すと言はれる。

○新議事堂建設案決定

暹羅内閣情報局發表のコンミュニケに據ると、閣議の結果新議事堂建設案を可決した由である。工費は約三百萬銖とのことである。右經費支辨案は次期議會に上程される筈である。

○ノンタブリーに放送局の新設

暹羅政府に於ては豫てよりプラ・カノングに放送局を設置すべく諸般の準備を進めてゐたが、同地地主間に地價の思惑が行はれたのに鑑み、同案を放棄した。一方、信ずべき筋の情報によれば、愈々ノンダブリーに三ヶ年の日子と工費八十七萬銖を以て強力な大放送局を新設するに決した由である。尚ほ、最近の閣議により、遞信局の職制を一部變更、從來の放送課を放送部に昇格せしめる案も決定した。

○暹羅航空輸送會社業績

暹羅航空輸送會社の年次株主總會は七月三十日開催されたが佛曆二四八〇年度（一九三七年）營業報告要旨左の通りである。

一、取扱郵便物　一四、三八一（瓩）
二、取扱貨物　一、八五四（〃）
三、乘客　六四（人）
四、飛行延哩數　一三〇、七六五（粁）
五、北廻り百三回、南廻り百四回、スケヂュール通り
六、不時着、故障等の事故なし
七、維持飛行場數は陸上一一、水上二

○榎並、倉田兩暹羅名譽領事へ暹羅勳章の贈與

在神戸暹羅國名譽領事榎並充造氏並に在横濱暹羅國名譽領事倉田猛郎氏は豫て日暹兩國親善の增進に寄與すること尠からざる廉に依り今回暹羅政府より孰れも同國王冠四等勳章を授與された

○臺灣總督より本協會へ補助金下付

豫て本協會より臺灣總督府へ補助金下付方申請中の所、今般之に對し同府より、本年度經常費として金壹千圓也を補助する旨の、十月七日附指令第八五七五號を接授した。

○暹羅「日暹協會」の近況

在盤谷日暹協會は成立以來既に三星霜を經て堅實なる發達をなし來つて居る。會は攝政首座、アティット殿下を總裁に頂き會長は前鐵道技監で去る昭和九年に訪日暹羅產業視察團々長として來朝せられたるピヤ・スリシチカーン・バンチョン氏會員數は既に八十餘名に達して居る。試みに同會第三年度（一九三七年四月――一九三八年三月）の事務報告を見ると左の通りである。

一、山田長政記念碑建設用地買收

協會は一九三五年中にアユチヤ縣アンバー、クルンゲカオ、コリアン在に於て五百ワー平方（一ワーは二米突）の土地を二千銖を以て買收したが更に敷地擴張の必要を認め一九三七年中に新に二五四四ワー平方を三千三百銖を以て買收した。此の第二回の買收に關し、一九三七年六月七日の委員會に於て左の通り全員意見一致した。

一、買收價格の高値でないこと

一、本事業上必要とする土地を既に全部收得し得たこと

前記土地の買收に付ては會員プラ・ピビット・サリー氏の盡瘁尠からざるものがあり玆に感謝を披瀝する。

尚右土地にはコンクリート境界標や外圍線を設け適當なる管理を講じて居る。

二、日本青少年團歡迎

一九三七年四月九日在盤谷ラチヤタニー・ホテルに於て來暹中の日本男女青少年團員二十六名（内三名は女子青年團員）を招待歡迎午餐會を催した。出席者主客計八十名、食後協會の名を以て日本青少年團に佛像入象牙製小塔一基を贈呈した。而して十二日にはこの團員をアユチヤ日本村阯見學に案内。尚團員一行の滯暹中は種々便宜を供與した。日本青少年團の盤谷出發に際しては會員プラ・ピビット・サリー氏初め多數中央停車驛迄見送つた。又、ピビット・サリー氏は東京佛教各宗聯合會宛

暹羅佛教々典（貝多羅葉經文）を托贈したり。

三、協會より矢田部保吉氏に銀細工大型莫入函を贈呈

一九三七年四月十三日協會長パンチョン氏が日本へ赴くの際協會より元駐暹公使にして日暹協會創立に尠からざる力を盡されたる矢田部保吉氏に、感謝文字入の銀細工大型莫入函の贈呈方を委托した。會長は日本へ到着、東京暹羅協會に於ける會合の席上、矢田部氏に本品贈呈の趣旨を述べ同月二十八日東京矢田部氏邸に持參手交した。

四、名譽會長石射猪太郎公使の送別會

一九三七年四月十五日盤谷ラチヤタニー・ホテルに於て石射駐暹公使送別午餐會を開催。出席者五十四名協會より記念として銀細工大型莫入函を贈呈した。石射公使より本會へ暹貨二百銖の寄附を受領した。

五、山田長政記念碑建設委員の委囑

左の諸氏に同委員を囑託した。

1. 日本總領事
2. 東　森藏氏
3. 日暹協會々長
4. ルアング・ウイチツト・ワツダカーン氏（文藝局長）
5. 三木　榮氏
6. 暹羅日本人會長
7. プラ・ピビツト・サリー氏（協會外務部々長）
8. 日暹協會々計主任

六、近衛公爵に祝電發送

東京暹羅協會々長近衛文麿公爵が一九三七年六月中、日本帝國内閣總理大臣に就任せられしに付協會より祝電を發送した。

七、歡　送　迎

イ、在盤谷新舊日本總領事の送迎會

一九三七年七月十九日新任總領事伊東隆治氏の歡迎と日本へ歸朝の前總領事森喬氏の送別を兼ね晩餐會を開催した。

ロ、日本柔道使節歡迎會

一九三七年八月中、日本柔道使節五名來暹ありたるに付本會にては各所見學の尊旋をなし且記念品を贈呈した。

ハ、同八月二十五日新任日本公使村井倉松氏歡迎晩餐會をラチヤタニー・ホテルに於て開催した。

八、日本人村陉に於ける山田長政記念碑建設起工式

一九三七年九月二十六日は日暹修交條約締結以來滿五十年に相當するを以て此日をトし日暹協會主催の下にアユチヤ日本人村陉に於ける山田長政記念碑建設起工式を擧行した。

同日はメナム河氾濫し日本人村陉は、平日より約一米突增水水面上に現はるゝ土地面積狹少にして來會者全部を收容する能はざりしため、式典執行委員會と日本人會とが協力して架橋をなし通路を設け漸く式場を造り次のプログラムにて滯りなく式を終へた。

1. 日暹協會々長の開會の辭
2. 日本神道に據る祭式
3. 暹羅僧侶五名の誦經
4. 日暹協會々長の記念碑建設經過報告
5. 起工式
6. 村井特命全權公使の祝辭
7. アユチヤ縣知事の祝辭
8. 日本人會々長の祝辭
9. 日本人會々長の閉式の辭

九、東京駐劄暹羅特命全權公使ピヤ・シー・セナ氏の送別會

ピヤ・シー・セナ氏は新たに東京駐劄暹羅公使として赴任さるるを以て、十月九日協會主催にてラチヤタニー・ホテルにて送別晩餐會を開催。出席者朝野名士數十名なり。席上協會々長よりセナ氏に對し名譽會長としての協會々員章を贈與した。

十、東洋文化協會々長の歡迎

十月初旬に來暹せられたる日本前衆議院議員中村嘉壽氏に對し種々便宜を供與し、十月八日盤谷文政大學講堂に於て「日本の憲法政治」なる演題の下に一場の英語講演を委囑した。

十一、暹日辭典の出版

協會はトルツク・ブンナーク氏に本書編纂を委囑し二、〇〇〇部を印刷出版した。

十二、憲法發布記念祭に際し工藝品展覽會開催

一九三七年十二月十一日擧行の憲法發布記念祝典に際し同祝典執行委員會より本協會主催にて工藝品展覽會開催方の勸誘ありたるに依り協會では日本人實業協和會の參加を求めサラーンロム王廷内に會場を特設展覽會を開催した。この展覽會場は審査の結果美術工藝二等賞を授與された。

十三、五名の日本佛教使節の歡迎

十二月十五日憲法發布記念祝典の最中に、來暹した五名の日本佛教使節を歡迎諸所を案内の上十七日にはラチヤタニー・ホテルに於て茶話會を催した。

十四、日暹協會々報の發行

一九三七年一月五日本會に於て今度機關誌刊行の件を全會一致を以て可決した。配布先は大體左の通りとす。

1. 會員及國內關係官廳其他
2. 各倶樂部圖書館
3. 日本に於ける諸協會、例へば暹羅學生會、暹羅協會等
4. 殘部は實費販賣

尙本報告迄に第一號より第五號迄を刊行した。

十六、協會事務所

一九三七年中協會事務所はトンブリー市プラ・ピビット・サリー氏方に置いた。

プラ・ピビット・サリー氏は自邸內南側一室を協會事務所として家具一式を備付無償提供された。

○暹羅男女學生に軍事訓練

バンコックからシンガポールに達した情報によると、暹羅國政府に於ては近年同國海軍力を擴充するとともに新興國としての軍備を着々整へつゝあるが、更に陸軍の整備にも乘り出すこととなり、本年度から同國公私各學校學生に軍事訓練を施す一方女子學生に對しても衞生班としての訓練を實施することに決定、これに必要なる各種訓練機關を設置することとなつた模樣である。右の訓練は嚴格を極め放課後と雖もラヂオ等をもつて隨時非常召集を行ふて訓練の徹底を期しやうとの意氣込みであると。

○盤谷で滿洲特產展示會

滿洲國特產中央會では滿暹貿易振興策の一助として、盤谷市に同國特產見本市を開催すべく準備中であるが、十一月初旬開催の豫定であると。

○都下大學、專門學校學生南洋研究聯合會の成立

都下大學及び專門學校教授を以て組織する南洋懇話會は本年六月九日南洋經濟研究所後援の下に日比谷松本樓に於て其の發會式を擧行したが、我が南方國策の推進には青年學徒にも呼びかくる必要ありとし、各大學專門學校內の學生南洋研究機關を動員し都下大學專門學校學生南洋研究聯合會の成立を見るに至り、本部を南洋經濟研究所に設置することゝなつた。而して第一回講演會を去る十一月十六日午後五時半より赤坂溜池三會堂ホールに於て開催、東部瓜哇日本人會理事長矢部英夫氏の「蘭印事情を述べ我が體驗に及ぶ」醫學博士磯部美知氏の「暹羅の成長」の講演あり、映畫「南進二千浬」全七卷を觀覽し盛會裡に九時半散會したる由。

○元暹羅經濟相の新輸出會社設立計畫

過般暹羅商業會議所に於ては日本から歸國したばかりの元經濟相プラ・サラサ氏を招待晩餐會を開いたが、氏は參會者百名を前にして一場の演說を行ひ、輸出の振興を庶幾するならば須らく外國商社と提携すべきであると强調、右具體化のため同氏が某外國商社と協力して一輸出會社を設立する旨を述べ注目を惹いた。同氏は先づ暹羅の天然資源から說き起して輸送施設の改善、諸外國市場の要求、暹羅生產品の輸出振興策等につき論じ、輸出業者の弱點卽ち外國筋に送られる品物の標準につき注意を怠つたこと及び、品質の不揃、國內運賃率割高の爲め價格に於て拘からず不利である等の三つの事實を一々、實例を擧げて指摘した。最後に氏は計畫中の一輸出會社の內容を說明、玆半年內には事業を開始する豫定であると附加へた。

○在暹プラ・サラサ氏の皇軍慰問金獻納

元暹羅國經濟相プラ・サラサ氏は本年六月歸暹、現に盤谷に於て氏の本邦滯在三ヶ年間の研究を基礎として經濟方面に活躍中である。同氏は曩に在邦滯在中にも外務省東亞局長を訪ひ、皇軍慰問金として金百圓の獻金方を依賴されたことは、當時旣に本會報に揭載して置いたが、今回又態々盤谷より宮原三井暹羅室長宛にて、最近皇軍が廣東、漢口を攻略し輝しき戰果を收めたることは寔に欣快に堪へず、同時に戰地に在る忠勇なる皇軍將兵の暑熱に惱みつゝあるを知り、深く同情し居るも、自分は現在遠隔の地に在り慰問も思ふに任かせぬため、之れを皇軍慰問金として獻納致したきに付、可然取計方を依賴する旨の書信に金壹百圓を添へて送つて來た趣である、同氏が歸暹後に於ても尙且つ皇軍將兵の勞苦を思ひ、再度獻金を申出られたことは、外國人として洵に感心な心掛と云ふべく、同時に同氏が滯京中に受けた我邦に對する印象の極めて良好であつたことを物語るもので、日暹親善上に及ぼす影響も又大なるものがあると思はれる。

○暹羅國内閣書記官一行の歡迎午餐會開催

暹羅國内閣書記官チツタセン氏一行三名、並郵便局貯金課長サワツト氏の來朝を機會に、右四氏の爲め、本協會に於ては、十一月五日正午華族會館に歡迎午餐會を開催した。一同打寛いで談話を交はし極めて和かな會合であつた。

○最近暹羅よりの歸朝者歡迎晩餐會開催

曩に世界一周實業視察團長として海外視察旅行の途に上り、歸途盤谷に立寄りて同地に一週間滞在し、其の間暹羅國朝野の要人と交驩を遂げ日暹親善上多大の効果を擧げて、十一月十三日歸京せられたる矢田本會常務理事、又在盤谷公使館一等書記官兼總領事として同地に一ヶ年餘在勤し、最近歸朝現に通商局第五課長として勤務せられをる外務書記官伊東隆治氏、及本年六月外務省文化事業部の囑託に依り盤谷に日語教授機關の設置其の他文化施設に關する調査の用務を帶び、二ヶ月に亘る視察を了して、最近歸朝せられたる現日語文化學校幹事松宮一也氏等、以上三氏の歡迎晩餐會を三井暹羅室と合同主催の下に、十一月二十一日午後六時より丸之内工業倶樂部に於て開催した。晩餐後別室に於て、三氏より夫れ〴〵有益にして興味ある講話を聽取した。

因に當夜は永年暹羅國政府農業顧問として活躍最近歸朝された農學博士三原新三氏も招待せしも間際に親戚御不幸の爲め缺席された。

○暹羅警察學生の歸國

暹羅政府の第一回派遣警察制度研究留學生として去る昭和十一年四月來朝したる同國警察少尉チヤムラス・マンダカナン、同ブラチヨツプ・キリヤブツト及同バンチヨン・ブンヤプラソプの三君は十二年十月より警察練習所に六ヶ月間入所、其後更に警視廳管内警察署に入り、我が國の警察制度、實務等を數ヶ月間に汎り見學して居つたが、過般研究科目が終了したので去る十一月六日東京驛發歸暹の途に就いた。三君東京驛出發の節は多數の警視廳警察官の見送りがあつた。尚ほ三君は滞京中長らくの間協會經營學生會館に止宿して居つた。

因に右警察學生三名の爲め、本協會では、十月二十九日午後六時より赤坂三寶堂東洋軒に於て、簡單なる送別晩餐會を開催し歸國後の活躍と日暹間の親善關係に對する努力方を希望して置いた。

○暹羅女留學生の來朝

茲數年來暹羅國より本邦への留學生の數は漸次增加し、現在既に百名を超過して居り、其の中には拾數名の女學生も居るが去る十月廿五日神戸着大阪商船盤谷丸にて新に三名の女學生が來朝した。内二名は東洋女子齒科醫專寄宿舍に入舍、日本語を勉強の上、來春同校の豫科へ入學の筈。又他の一名は東洋英和女學校へ入學希望の由。

○留日暹羅學生の演技

本邦滞在暹羅國留學生で組織する暹羅學生學友會では去る十二月十日の暹羅憲法發布記念日を祝賀して九、十兩日午後六時より一ッ橋商大講堂に於て、暹羅音樂、舞踊、劇、日本語劇會を開催、各國外交官、暹羅關係人士、學生等多數を招待した。その玄人跣足の妙技に一同感嘆、非常なる盛會であつた。

プログラム

一、開會の辭
二、シヤム古典舞踊
　(イ) チウイ　チヤイ　(御挨拶)
　(ロ) ビテイ　ウモン　(樂劇)
　印度神話ラマヤナ物語よりの挿話、英雄ラマの家來達に依り魔王トスカンの洞中迷信的籠り儀式妨害の物語
三、シヤム歌　ピアノ獨奏　プア・サリクツタ
四、ラオバン　(月夜の踊)
　北部シヤム固有の特性的舞踊
五、ルアカラン　シヤム現代劇
六、一日の尊　(劇)日本語にて
七、閉會の辭　以上

○駐日暹羅公使館付武官の陞進

駐日暹羅國公使館付陸軍武官ルアン・ヴイラ・ヨータ中佐は去る八月二十日附にて陸軍大佐に陞進せられた。

○東京暹羅公使館々員の增員

最近左の三氏が東京暹羅公使館々員として本國より着任せられた。

Mr. Them Swvarnadat
M. C. Prjaphol Kamalasna
Mr. Ouer Tirabaedya

○暹羅人士の往來

△「チツタセン・パンチヤ」　暹羅首相書記官、同氏は內閣書記官スリン、チノタイ氏人民代表議會事務局書記官チヤラーン・パンタロ氏と共に諸外國議會制度調査の用務を以て亞米利加經由。十月末來朝、滯在約一ヶ月、我が國に於ける調査を終へ十一月廿四日神戶發筥崎丸にて歸暹せられた。

△「サワツト・ソチタツト」　暹羅郵便局貯金課長同氏も前記一行と共に來朝遞信省貯金管理局に於て詳細貯金事務見學の上同船にて歸暹。

△「ドクトル・アムノワイ」　暹羅官立醫科大學放射線科助教授同氏は歐米視察を經て十一月十日來朝、滯在中帝大醫院、癌研究所、聖路加病院を見學同じく筥崎丸にて歸暹。

△「ドクトル・サガツト」　暹羅內務省衞生局醫員同氏は本年六月來朝目下營養研究所に於て佐伯所長指導の下に研究中滯在約六ヶ月の豫定。

△「スンゴアン」　暹羅海軍燃料部技師同氏は本年四月職工二十餘名を引率來朝在山口縣德山燃料所に於て研究中のところ終了十一月三十日神戶發西貢丸にて一同歸暹。

○會員動靜

有田八郎氏（名譽會員）　去る十月廿九日再び外務大臣に就任せらる。

矢田部保吉氏（同）　外務省囑託として去る十月初旬北支へ出張十一月初旬歸朝せらる。

門野寛九郎氏（監事）　此度東京商工會議所會頭を退任せらる。

兒玉謙次氏（評議員）　今回在上海中支振興會社總裁に就任十一月下旬赴任せらる。

石射猪太郎氏（理事）　豫て外務省東亞局長として御活躍中の所今般和蘭駐劄特命全權公使に榮轉、來春早々赴任せらるゝ由

三島通陽子（常務理事）　去る七月一日横濱出帆の平安丸にて米國經由渡歐せられ、其の後彼地に於て御活躍中であつたが、無事任務を果され、十一月廿七日未明横濱入港の大阪商船織內丸で歸朝せらる。

矢田長之助氏（同）　本年六月以來歐洲各國視察旅行中の所、歸途新嘉坡より滇車にて盤谷に立寄り、約一週間同地に滯在の上、政府要人と交驩を遂げ、多大の効果を擧げて五ヶ月に亘る旅行を終へ、無事十一月十三日夕刻歸朝せらる。

長與又郎博士　今回東大總長を辭職なされたる所、東大評議員から名譽教授に推薦せられる事に內定せる由。

八田嘉明氏　去る十月廿九日東北興業會社總裁並東北振興電力會社々長から、拓務大臣に就任せらる。

藤山愛一郎氏　去る十月東京商工會議所副會頭に就任せらる。

南鄕次郎氏　今般加納講道館長の後任として新に講道館長に就任せられることに決定せる由。

松宮一也氏　義に外務省の依囑に依つて渡暹中であつたが、約二ヶ月同地に滯在用務を終へ、去る十月歸朝せらる。

大山周三氏　去る七月歸朝滯京中の所、今般在盤谷貿易斡旋所長に就任、十二月十三日神戶出帆の盤谷丸にて出發赴任せられた。

○寄贈圖書

左の通り各々寄贈を受け厚く感謝する次第である。

一、暹羅案內（三井暹羅室）　一部　宮原武雄氏
一、暹羅の近況と華僑（平野群司）　一部　佐藤致孝氏
一、季刊回教事情—第一卷　第三號　一部　外務省調査部
一、友邦ハンガリー（吉川兼光）　一部　日洪文化協會
一、北千島占守島及び樺太多來加地方に於ける考古學的調査豫報（岡正雄・馬場修）　一部　日本民族學會
一、日本語會話—卷三（松宮彌平）　一部　松宮一也氏
一、双月旅日記（中島眞雄）　一部　中島眞雄氏
一、Bulletin of the South Sea Association (Sept. 1938)　二部　南洋協會
一、Contemporary Manchuria (Vol. II. No.6)　三部　滿鐵東京支社

○財團法人暹羅協會總裁及役員並職員

（昭和十三年十二月現在）

總裁	秩父宮雍仁親王殿下	理事	伯爵 二荒芳德
名譽總裁	アテイット・デイバヤ・アバ殿下	同	國府精一
役員（イロハ順）		同	淺野良三
會長	公爵 近衛文麿 同		伯爵 酒井忠正
副會長	侯爵 德川頼貞 同		醫學博士 北島多一
名譽會長	駐日邊羅公使 ピヤ・シ！・セナ 同		伯爵 溝口直亮
同	駐邊日本公使 村井倉松 同		三好重道
理事長	子爵 岡部長景 監事		門野重九郎
常務理事	子爵 三島通陽 同		藤山雷太
同	矢田長之助 評議員		井上雅二
理事	伊藤次郎左衛門 同		犬丸徹三
同	伊東延吉 同		侯爵 細川護立
同	石射猪太郎 同		公爵 德川閑順
同	男爵 大倉喜七郎 同		岡崎久次郎
同	加藤恭平 同		河井彌八
同	文學博士 高楠順次郎 同		子爵 加藤泰通
同	鶴見左吉雄 同		加藤勝太郎
同	南條金雄 同		文學博士 高楠順二郎
同	村田省藏 同		子爵 黑田長敬

評議員	倉田猛郎 同		安住伊三郎
同	正木直彥 同		醫學博士 北島多一
同	榎並充造 同		關屋貞三郎
同	江口定條 主事		遠山峻
同	出淵勝次 日白邊羅學生會館學監		高久正義

日本—盤谷航路定期出帆表（昭和十三年十二月以降）

大阪商船會社

	横濱	名古屋	大阪	神戸	門司	基隆	海防	西貢	盤谷
	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
盤谷丸	一二、八	一二、九	一二、一一	一二、一三	一二、一四	一二、一七	一二、二二	一二、二六	一二、二八

三井物産船舶部

	横濱	名古屋	大阪	神戸	門司	盤谷
	月日	月日	月日	月日	月日	月日
乾祥丸	一二、二二	一二、二四	一二、二五	一二、二六	一二、二七	一、五
朝日山丸	一、九	一、一二	一、一三	一、一四	一、一五	一、二四
乾祥丸	二、二二	二、二四	二、二五	二、二六	二、二七	三、八
朝日山丸	三、八	三、一〇	三、一一	三、一三	三、一四	三、二三

〔非賣品〕

昭和十三年十二月十五日　印刷納本
昭和十三年十二月二十日　發行

發行所　財團法人　運羅協會
東京市麹町區霞ヶ關三丁目四番地三
電話銀座二六五六番
振替口座東京一四八三一番

發行兼編輯人　遠山峻
東京市淀橋區戸塚町一丁目二二〇番地

印刷人　河田保治
東京市淀橋區戸塚町一丁目二二〇番地

印刷所　明立印刷株式會社